

2014.1/ No.139

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

Topics

GLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」元年

平野俊夫総長 平成26年年頭挨拶

濃いっ! 阪大 — 地域交流編 —

市民と大学をつなぐ阪大の社会学連携

Contents

03 Topics

GLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」元年

平野俊夫総長 平成26年年頭挨拶

14 濃いっ!阪大 — 地域交流編 —

市民と大学をつなぐ阪大の社会学連携

26 濃いっ!阪大 — 教育研究編 —

世界初! 内視鏡を通して消化管内の洗浄と吸引を行う

「エンドシャワー®」

～山科精器株式会社との共同研究により開発～

28 役員室だより

34 阪大ほっとニュース

36 教職員インタビュー

38 阪大の組織 AtoZ

40 表彰・受賞等

43 人事/訃報

44 Information

表紙写真:「吹田キャンパスからの日の出」
(工学研究科電気系E3棟屋上から撮影)



撮影:クリエイティブユニット 准教授 伊藤雄一



Topics

GLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」元年

平野俊夫総長 平成26年年頭挨拶

1月6日(月)、コンベンションセンターにおいて、平野俊夫総長が約600名の教職員へ新年のあいさつを行いました。

今年をGLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」元年と位置付け、2031年の創立100周年には、大阪大学を世界トップ10の研究型総合大学にするという目標に向けて、教職員・学生と一致協力して邁進していきたいと決意が述べられました。





皆様、明けましておめでとうございます。

昨年の年頭挨拶では、2031年に大阪大学創立100周年を迎えた時、世界でトップ10に入る研究型総合大学になるという夢を語りました。昨年は大阪大学の原点である適塾創設175周年、緒方洪庵没後150年という大阪大学にとり記念すべき年でありました。適塾には全国から1,000名以上の若者が集い、切磋琢磨して学問に励みました。そして福澤諭吉や大村益次郎、橋本左内など日本の新時代を切り拓いた人々が育ちました。その適塾から200年後の大阪大学は、世界に向けて門戸を開き、海外の大学や研究者が注視するGLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」として輝いているはずです。「世界トップ10」という目標は世界の誰しもが認める優れた大学の仲間入りをはたすということを象徴的に表現したものです。

夢や理想は実現することが困難だから夢であり理想と呼ばれます。現実と夢があまりにもかけ離れているが故に、人は夢を決して手に入れることができない遥か彼方の出来事だとあきらめてしまいます。しかし、夢を忘れることなく、夢に向かう努力を一步一步していると、いつの日か夢が現実のものとなります。

「夢は叶えるためにこそある」

私はそう信じて人生を歩んできました。

調和ある多様性の創造

大学は学問（研究と教育）の府であり、大学こそが未来の原泉であり、未来を創り出す力そのものです。

物事の本質を見極める研究を行うとともに、何が物事の本質であるかを見極める能力を有した人材を育成していく必要があります。また、21世紀の大学に求められる新たな役割として、「調和ある多様性の創造」を挙げたいと思います。世界には人種、性別、言語、慣習、文化や宗教などの多様性が存在します。この多様性の維持は豊かな人類社会の発展にとって大変重要です。一方グローバル化が進む国際社会では、これらの多様性は時として紛争の原因になったり、コミュニケーションの妨げになります。21世紀のグローバル化社会においては多様性を維持しながら、多様性が生み出す障壁を乗り越えることが人類の発展にとりますます重要になると思います。

大学は、学問という人類共通言語を有しています。学問は芸術と並んで、様々な障壁を乗り越える大きな力になります。学問を介する人材交流により、多様性の維持とそれが生み出す障壁の克服という、相反することの両立が可能となります。大学はこのように、「調和ある多様性の創造」によりグローバル化社会に大きく貢献できるはずです。また貢献しなければなりません。21世紀においては学問を介する世界規模での人材交流を今まで以上に推進する必要性がここにあります。大阪大学は世界適塾として、心豊かで平和な社会を実現するために自らの力を磨き上げ、学問を介して世界に貢献していかなければなりません。

一方、大学内部でも多様性が必要です。人の多様性、部局の多様性、学問（研究と教育）の多様性などを高いレベルで維持することが基本です。言い換えれば、個の力の最大化を成し遂げることが大学発展の原動力です。しかしながら、学問自身の変遷やその多様性の増大に加えて、少子高齢化や財政問題など大学を取り巻く環境も激変しています。これまで以上に大学全体の力の最大化、すなわち組織の力の最大化も追求していかなければなりません。個の力の最大化を図るとともに組織の力の最大化を図る。この2つの問題は相互依存していると同時に、コンフリクトを生じる可能性もあります。これからの大学運営に求められていることは、個の最大

化と組織の最大化を如何にバランスよく推進して行くかということです。そのためには、本部と部局の間に適度な緊張関係を構築するとともに、この緊張関係を対立ではなく、ドライビングフォースに変換して行くことが大変重要です。そのためには大学構成員全員が個の最大化を図る努力をするとともに、如何にすれば大学全体の力の最大化を図ることが出来るかを真剣に考え、譲るべきは譲り、お互いが協力しあい、英知と力をあわせ、大学全体の力の最大化を志向していかなければなりません。そのためには、対話と恕の心が重要であり、本部と部局や大学構成員がお互いの立場を思いやるとともに、構成員全員が大学全体の事を考える必要があります。

昨年を振り返り今年を思う

昨年は皆様方におかれましては、世界的視野に立ち研究・教育・運営面において、大阪大学の発展のためにいろいろ知恵を絞ってご協力、ご尽力いただきました。このことに改めて感謝いたしますとともに、今年も引き続きよろしくご支援をお願いいたします。世界適塾として、世界トップ10の研究型総合大学になるという夢を皆様方と共有し、一人ひとりの英知と力を結集すれば、この夢を実現することは可能だと思えます。

昨今、日本社会や大学を取り巻く状況は大変困難なものがありました。国立大学法人運営費交付金の削減や給与の削減など、大学人を取り巻く環境も大変厳しいものがありました。このような逆風の中でも、脳情報通信融合研究センター研究棟が昨年3月に完成しました。また、吹田地区に最先端医療融合イノベーションセンター棟が3月に完成します。このセンター棟には経済産業省プロジェクトである本来の研究室フロアに加えて、医学部学生や留学生のための自習室やセミナー室などの学生専用フロアや未来戦略機構専用フロアを大阪大学独自の財源により、合築という形で整備します。豊中地区には、オープンラボ、リノベーションセンター、国際人材育成教育拠点や未来戦略機構が同居する文理融合型総合研究棟が今年3月に完成します。さらに生命動態システム科学研究新棟、情報系基礎研究・福利厚

生複合新棟、医学部附属病院オンコロジーセンター新棟、環境ものづくり融合研究新棟、サイバーメディアセンター ITコア新棟および本館改修、豊中総合図書館の増築および改修、さらに薬学研究科や工学研究科で改修工事が進行中です。また、今年もいくつもの建物の耐震改修工事が開始されます。このように世界適塾に向かって、教育研究環境は順調に整備されつつあります。

大阪大学未来戦略機構も順調に発展し、現在5つの博士課程教育リーディングプログラムよりなる教育部門と、創薬基盤科学、認知脳システム学、光量子科学の3つの研究部門の合計8つの教育・研究推進部門が部局横断的な教育研究活動を開始しています。さらに、昨年実行しました財源再配分により、間接経費の部局配分を50%から60%に増やしました。その結果、部局や研究者個人の裁量が増えることが大阪大学の研究力アップに今後どのような効果を生み出すかを大変楽しみにしています。さらに、他の国立大学に先立って計画性のある施設老朽化対策制度を昨年導入いたしました。また、世界トップ10に向け、様々な部局マネジメント及び人材育成・獲得支援策を作成しました。

これらの先進的な施策を導入することができたのは、皆様方全員の英知と熱意の賜物であります。皆様に深甚なる敬意を表するとともに、心より御礼申し上げたいと思います。

今年を世界適塾元年と位置づけて、大阪大学創立100周年の大きな夢の実現のために、大阪大学の現役の皆様は勿論のこと卒業生を含む大学関係者全員の力と英知を結集していきたいと考えています。

では、平成26年からどのようなことを具体的に実行しようと考えているのかについてお話したいと思います。

給与減額措置の終了

東日本大震災等に対処するために制定された「国家公務員の給与臨時特例法」に依拠して実施してまいりました給与減額措置については、本年3月31日をもって終了することといたします。教職員の皆様方には、震災からの復興に協力するとともに、教育と研究を最優先する

という考え方に立って、この1年9か月の間、ご辛抱、ご協力をいただきましたこと大変感謝いたします。東北地方の復興には、本学としても様々な形で引き続き支援を行ってまいりたいと考えています。今年3月には、福島大学が中之島センターで開催する復興シンポジウムを本学が共催・支援いたします。

柔軟な人事・給与制度の構築

「人材」は大学にとって最も重要な資産でありますので、人事制度は、優秀な人材を獲得し育成することに資するものでなくてはなりません。その観点から、私は、「未来戦略」において「柔軟な人事制度の構築」を掲げ、人事に関する各部局の自由度を広げることにより、部局の積極的な取り組みを支援する制度の創設を目指してきました。

具体的には、特例教員制度や大阪大学特別教授制度を導入しました。これらの制度は、文部科学省の国立大学法人評価委員会による平成24年度の評価結果で、本学としては実に8年ぶりに「特筆すべき進捗状況にある」との高い評価を得ました。また、早期定年退職制度の適用年齢を引き下げ、グローバル化推進教授招へいプログラム、外国人教員等採用促進プログラムや国際共同研究促進プログラムを創設いたしました。

そして、本年1月からは、さらに次の制度を導入いたします。まず一つ目、国際的に優れた研究者等で大学が特に必要と認める者を対象に任期を課さない評価連動型年俸制(65歳定年)を導入いたします。二つ目がクロス・アポイントメント制度です。これは本学教員あるいは相手方機関の研究者等がそれぞれの現職を離れることなく、双方の身分を有することができる制度です。三つ目は短期間勤務制度です。例えば9ヵ月間大阪大学で勤務し、3ヵ月間は休暇をとるなど海外の大学に近づけた柔軟な勤務形態の制度です。

今後も、柔軟な人事制度の構築に向け、年俸制の適用対象範囲を概ね58歳以上の定年退職前の教授や、URAなど大学運営を支援する専門職に広がります。また、複数経費による雇用など雇用経費の弾力化を進めます。さらに65歳以上の国際的に活躍している外国人研究者



(シニア特別教授：仮称)を招聘するための新たなプログラムなどを検討していきます。

各部局におかれては、昨年実行いたしました世界トップ10に向けた部局マネジメント及び人材育成・獲得支援策の各種制度とこれらの制度を様々な組み合わせるなど独自に工夫していただき、優秀な人材の獲得・育成にこれまで以上に積極的に取り組んでいただきたいと思います。

教育改革

教育の重点目標の一つは、未来戦略に掲げた教育の質の保証と教育改革です。

第3期中期目標・中期計画に向けて、大阪大学における教育改革を進めます。人材養成目標に基づく学位授与方針・教育課程の編成方針・入学者受け入れ方針を公表し、人材養成目標を達成するために必要な知識・技能・態度を身に付けさせるためのカリキュラム改革を行います。

新たなカリキュラム策定とともに、双方向型授業など主体的な学修を促す授業方法への改善も必要です。昨年6月に設置しました教育学習支援センターが中心となって教員やTA向けの新たなFDを始めています。本年4月からは新たにGPA制度を導入します。新カリキュラムは第3期中期計画から実施することになりますが、それまでも、現行のカリキュラムを新たな視点から見直し・整理することとしています。

もう一つの重点目標は未来戦略に掲げましたグロー

バル人材の育成です。日本人学生と留学生が互いに切磋琢磨する国際的なキャンパスを実現するために、優秀な留学生の獲得と日本人学生の海外派遣を推進し、外国人教員や英語による授業も増やす方針です。世界中から大阪大学に集まった志のある学生が、大阪大学で学び世界に羽ばたいてゆく、というのが世界適塾の姿です。

2020年には学部留学生を現在の4%から10%に、大学院の留学生を15%から25%に増やすために、短期留学生向けのプログラムを開発するとともに、正規留学生を受け入れる新たな入試制度を実施する予定です。学部の新たな入試制度では、来日する前に母国で受験し、大阪大学に入学するまでの半年間に日本語の集中授業を受けます。大学院においてはダブルディグリー制度や国際ジョイントラボなどを活用した教育プログラムを推進します。また、海外に向けて大阪大学の授業のインターネット配信を開始する予定です。

大阪大学の学生に早い段階で海外体験させるために、昨年度は総長裁量経費で300人を超える学生の海外派遣を支援しました。各部局におかれましても積極的に海外派遣プログラムを開発して頂くようお願いいたします。更に、外国語学部を持つ唯一の研究型総合大学である大阪大学でしか育てられないような人材育成プログラムを開始し、外国語学部における25種の言語と他の10学部の専門性を身につけた250種類の人材を育てることをめざします。

研究推進

未来戦略機構に昨年は認知脳システム学研究部門と光量子科学研究部門を立ち上げました。6月には、「大阪大学の決意—未来戦略機構の始動—」と銘打って、未来戦略機構のキックオフ・シンポジウムを開催致しました。今年は3つの研究推進部門それぞれが国際シンポジウムを開催する予定です。今後も大阪大学の国際戦略の一環として、部局横断的な研究推進部門の立ち上げを検討していく予定にしております。

昨年、「国際共同研究促進プログラム」を開始しました。これは最先端の研究を展開している外国人研究者

と本学の研究者との共同研究を支援するものですが、招聘した外国人研究者が離日している時にも共同研究を続行できるように、支援研究者を雇用する経費や、招聘研究者の研究室の若手が来学するための経費が措置され、国際ジョイントラボとして位置付けられるものです。平成25年度採択のプログラムで参加する教授又は准教授クラスの招聘研究者は、15カ国、22名に上り、共同研究のみならずセミナーや講義等を通して、本学の研究・教育のグローバル化の推進に大きく貢献すると期待しています。現在、本年4月に開始の提案を募集しています。新たな年俸制、クロス・アポイントメント制度等本学が推進しています柔軟な人事給与制度との組み合わせにより、各部局では、このプログラムを積極的にかつ有効に利用してください。

産学連携

大阪大学の産学連携による研究も新しい段階に入る筋目の年と考えています。

大学の出資に係る法令が昨年12月の国会で成立したことをうけて、官民イノベーションファンド事業(国立大学に対する出資事業)による200億円の運用を本格的に始めます。昨年採択されたCOI STREAM(革新的イノベーション創出プログラム)拠点事業の遂行とも合わせて、イノベーションを起こすための、新しい産学連携スタイル・組織を構築していきます。他大学に先駆けてスタートし、注目を集めている共同研究講座や協働研究所を核とする「Industry on Campus」を新しいステージに進化させます。あわせて、国立大学法人化とともにスタートし10年となる知的財産戦略も根本的な見直しを行い、効率的で強力な知財確保を目指します。

引き続き、大学でしかできない基礎研究を強力で推進していくとともに、産学連携や高度先進医療を介して確実に社会に還元しつつ、その成果を将来の発展の種実である基礎研究に再投資していく、これらが好循環することにより大阪大学の未来への自立的かつ加速度的発展の道筋を樹立していきます。

国際戦略と世界適塾

世界適塾元年と位置づける今年は、単に国際交流にとどまらず「国際戦略」の名の下、教育・研究・国際貢献のそれぞれのカテゴリーにおいて積極的な海外展開を図ることを考えています。すなわち、「国際交流から国際戦略への転換」を図り、具体的な施策を示し実行していきます。また、環太平洋大学協会（APRU）や東アジア研究型大学協会（AEARU）、日独6大学学長会議（HeKKSaGOn）、日中大学学長会議などの多国間・二国間国際ネットワークを通じて、研究者・学生への国際交流の機会、例えば、国際フォーラムやサマー・スクールなどを積極的に提供していきます。さらに、海外拠点を見直し、これまでのサンフランシスコ、グローニンゲン、バンコク、上海の拠点を「北米センター」、「欧州センター」、「ASEANセンター」、「東アジアセンター」と、地域の中心として位置づけ、センター毎の役割をより明確にし、海外留学生の獲得、海外派遣学生の増加を図ります。また海外有力大学オフィスの大阪大学への誘致を目指します。

国際戦略は、研究や教育の国際化とさらに強く連携することを強く意識して進めていかなければなりません。これら多国間・二国間国際ネットワークや大阪大学海外オフィスと、昨年開始した国際ジョイントラボや大阪大学が既に締結している多数の大学間協定や部局間協定を有機的に連携させ、これらを戦略的に再構築することにより、世界適塾の確立を進めていきます。今後、大阪大学キャンパスや大阪の地で、様々な国際学生フォーラムや国際学術シンポジウムを積極的に開催していきます。

人的財的資源配分の再構築

大阪大学では、皆様方のご理解のもと、平成26年度から10年間で教員ポストの約5%を各部局から大学本部に留保することとしました。平成16年の国立大学法人化に際して、当時の執行部が設定した部局裁量90%ルールを完全実施を正式に決定した訳です。そして、大学本部に留保される教員ポストは、財務状況の許容範囲内で、未来戦略実現のために、①大学全体の見地

から必要な業務を行う「総長裁量未来戦略ポスト」、②積極的なマネジメントを行う部局に対して期間限定型の「部局長裁量未来戦略ポスト」、として配分していきます。運営費交付金においても、各部局における運営上の取り組み、例えば業務運営の効率化、部局事務や教育や研究のグローバル化、あるいはよりレベルの高い教育や研究推進、従来の方法に囚われない戦略的な人事制度など様々な取り組みを積極的に評価し、部局長未来戦略裁量経費や、事務（部）長未来戦略裁量経費として、平成26年度より部局に追加配分いたします。昨年末には各部局から未来戦略実現のための様々な取り組み内容の申請がありました。各部局におかれましては引き続き積極的に運営上の工夫をお願いいたします。

引き続きこれからの大学改革等への対応を見据え、未来戦略を実現し世界トップ10実現に資するための運営費交付金の戦略的・重点的配分の拡充の検討に着手します。そのために、財源の確保・既存の枠組みの見直し、及び適切な再配分などについて検討を開始します。

財務面の検証と新たな財源確保

大学改革促進係数1.3%による削減が引き続き適用されており、国からの運営費交付金は将来的にも減少していくものと思います。このような状況を克服するためには、現在の財務面の検証と新たな財源確保が必要です。

大阪大学では、教育研究等活動向上に資する効果・効率的な財務運営を目的として、財務面からの検証を継続して行っています。昨年は前年度に実施しました教育研究等重点推進経費の配分決定方法変更の効果を検証し、執行部判断をより強く反映する仕組みに見直しました。今後は、運営費交付金の継続的削減に対応できるように財務体質を強化するため、財務面からの抜本的な検証作業を計画しています。また、より効果的な資金運用や戦略的な予算配分を実現するため、資金運用検討ワーキングと財務諸表作成ワーキングを設置し、検討を開始しています。

大学独自の財源を確保するために、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に全学をあげて取り組むこと

は申すまでもありません。大学執行部でも、未来戦略機構を介して、この2年間に国立大学改革強化推進事業費や研究大学強化促進事業費などの新規の競争的資金を獲得してきました。これら新たに獲得した財源により、世界トップ10に向けた部局マネジメント及び人材育成・獲得支援策などの様々な支援策が可能となりました。今後もこのような総長裁量財源の獲得に全力を上げていきます。今年、皆様のご協力のもと、特にスーパーグローバル大学事業への応募に注力して参ります。



大学独自の財源である大阪大学未来基金を充実していかなければなりません。昨年、世界トップ10の夢実現のために、大阪大学未来基金「創立100周年ゆめ募金」をスタートしました。また「自らの大学は自らの手で良くする」という意識を教職員は勿論のこと学生一人ひとりが共有することを目指して、ゆめ募金ワンコインキャンペーンも開始しました。私は2031年までに大阪大学未来基金の寄附総額を少なくとも100億円にしたいと思っています。大阪大学の関係者が約10万人として、1人毎年5千円の寄附を20年間続けて頂ければ100億円になります。この額は1ヶ月約420円、1日あたり約14円です。さらに大阪大学関係者の人の輪を広げるために、新たに卒業生室を設置することを決定しました。卒業生室は、本学を卒業・修了した方々と生涯を通して関係を維持し、交流を深め、共に発展していくための施策を企画、立案し、推進していきます。東京での「大阪大学の集い」を強化するとともに、海外同窓会との連携を強めていきます。昨年は大阪大学北米同窓会やベトナム同

窓会に出席しました。今年も欧州同窓会やタイ同窓会に参加する予定です。

世界トップ10と、未来基金「創立100周年ゆめ募金」100億円の目標を皆様と共有し、実現しようではありませんか！まずは世界適塾元年の本日、ゆめ募金ワンコインキャンペーンに参加いただきますようお願いいたします。

広報戦略と社会学連携

大阪大学のブランドの確立のため、原点である適塾を中心とした「ブランディング戦略」を積極的に進めていきます。大阪大学のプラスイメージを国内外に示し、知名度を獲得するため、大学ホームページを充実していきます。昨年度はツイッターやフェイスブックなどとホームページの連動を計りました。また大阪大学の研究内容が一目でわかる研究ポータルサイト（ResOU）と公式Facebookを昨年末に立ち上げました。今年、大阪大学の海外留学生の受け入れ数が一位、二位である中国、韓国に目を向け、新たに中国語や韓国語によるホームページを立ち上げます。また、海外学生を意識した英文ホームページの改善を行い、さらなる留学生の獲得を目指します。大学の情報を提供する定期記者会見を新たに設け、マスコミによる大阪大学のイメージアップを図ります。首都圏での本格的な情報収集・発信、広報・社会学連携、同窓会活動の拠点として「大阪大学東京オフィス」を霞ヶ関に設置し、大阪大学の認知度、ブランド力、首都圏さらには国際プレゼンスの向上を図ります。

昨年の6月25日、大阪に行幸啓されていた天皇、皇后両陛下が大阪大学会館にある適塾記念センターを訪問されました。大阪北浜にある史跡・重要文化財の適塾は、耐震改修工事のため現在休館しておりますが、4月に再オープン予定です。再オープンの式典や中之島センターでのシンポジウムを通じて適塾の大阪大学における位置づけをより強固なものにしていきます。市民と大阪大学とが互いに学び合う場を提供し、市民と大阪大学とをつなぐ社会学連携や社会貢献活動を進めて参ります。

事務組織改革

大阪大学の強み・特色を最大限に生かし、世界トップ10に向けて大学改革を進めていくためには、事務職員の果たす役割も極めて重要です。効率的な事務組織を構築するとともに、事務職員の一層の意識改革を図り、優秀な人材を育成していく観点から、事務組織改革を進めて参ります。各部局における職員の日頃の業務への評価に加えて、大阪大学未来戦略に掲げたPMT（プロジェクトマネジメントチーム）などにおいて、広い視野をもって大学全体を見渡した仕事を主体的にできる人材を育成しており、このような取り組みを中心に大学全体が柔軟かつ活力に満ちた組織となることを目指します。また各部局の業務運営効率化やグローバル化など未来戦略達成のための様々な取り組みに対して優れた成果を挙げた個人への報奨制度の強化や、昨年創設した部局事務に対する事務（部）長未来戦略裁量経費制度の改善をしていきます。本学のグローバル化をより一層推進するため、英語表記による学内通知を昨年10月から開始しました。今後さらに英語表記による通知の拡大に努めていく予定です。

環境整備

大学の経営基盤の一つである施設の健全化を目指して、他の国立大学に先立って、計画性のある施設老朽化対策制度を昨年度から実施し、平成25年度は37件の事業を行っています。この制度は、文部科学省の国立大学法人評価委員会による業務の実績に関する評価で最上位の「特筆すべき成果」にランクされました。本年度もこの制度をフルに活用し、計画性を持った快適なキャンパスのための施設維持を行っていきます。

大阪大学のキャンパスでは前述しましたように、随所で新規研究棟や耐震工事などの施設工事のための土煙が立ち上っており、世界適塾元年の今年、大阪大学の研究・教育環境は飛躍的に改善されます。一方学生の施設にも数多くの支援事業を昨年行いました。豊中体育館メインフロアーのリニューアルやクラブハウス「明道館」の空調設備の設置、吹田総合グラウンド「すいら

ん」の人工芝化と陸上用トラックの整備、さらに体育管理棟の改修とクラブ用簡易倉庫8棟を設置しました。現在、「すいらん」に夜間照明設備を、また豊中総合グラウンドに大規模災害発生時対応施設「多目的倉庫」を工事中で、今年3月完成予定です。これは平時には体育の授業および課外活動用施設として利用します。学生ならびに教職員の体育・文化活動環境を格段に向上させるとともに、従来からの懸案であった豊中総合グラウンドの過密化を緩和できると期待しています。今年は、箕面キャンパスの整備や学内連絡バスの充実をしていきます。また、留学生宿舎の確保や教職員宿舎の老朽化対応も喫緊の課題となっており、今年中に将来を見据えた具体的な整備プランを策定します。

未成年者を含む多数の者が利用する大学キャンパス内での受動喫煙をなくすため、キャンパス内全面禁煙を実施しなければなりません。昨年設置した「喫煙対策ワーキンググループ」において、平成29年4月からキャンパス内全面禁煙を実施するロードマップが策定されました。

このように、環境整備を進めることにより、世界適塾として恥ずかしくない大阪大学の環境を整えていきます。

リスク管理

昨年いくつかの大学において、研究者倫理にもとる不正行為が発生致しました。このような不祥事は、研究活動に対する国民の信認を失墜させ、科学技術や学術の健全な発展を阻害するものであり、誠に由々しきことであります。

危機感を持った日本学術会議並びに国立大学協会は、科学者の行動規範や研究倫理遵守の徹底を求める声明を出し、文部科学省は倫理教育の強化や組織としての責任体制の確立に向けた検討を現在行っております。

本学でも、「研究における不正行為・研究費の不正使用」撲滅に向け、研究者として守るべき規範の再確認、ならびに本部、部局、研究者個人のそれぞれの責任の明確化に向けて体制作りを進めております。

大阪大学とその研究活動の信頼性を維持するためにも、皆様方のご理解とご協力をお願い致します。教職員

の皆様には、大学人としての見識を疑われることのないよう厳しく自らを律するとの固い決意をしていただきますように重ねてお願いいたします。大学としても、不祥事に対しては引き続き厳正に対応していく所存です。

そして最後に一言

2031年5月1日、大阪大学創立100周年の日、それは本日から、6324日後です。それほど遠い未来ではありません。その時大阪大学は世界適塾として、緒方洪庵の精神である「人のため、世のため、道のため」を胸に、学問による「調和ある多様性の創造」で、世界に貢献していることでしょう。世界トップ10の研究型総合大学になる。この夢を皆様と共有して、この夢に向かって目の前の山を登りきりましょう。1つ1つです。創立100周年ゆめ募金もワンコインを毎日続けることにより実現します。大学を構成する皆様が夢や使命を共有し、それらを達成するために、一人ひとりの英知と力を結集していく必要があります。そしてそのためにも対話が重要と考えて

います。昨年は部局長をはじめ、学生や教職員らと総長や理事との対話をあらゆる機会を捉えて行いました。また昨年の末に大学執行部による部局訪問を開始し、部局の研究活動等を説明していただくとともに意見交換をしています。今年も皆様と一緒に、どうすれば大阪大学が良くなるかを考えていきたいと思っております。創立100周年の夢に向かって更なる努力を皆様と知恵を出し合い、一致協力して一步一步努力していこうではありませんか！

今年を世界適塾元年と位置づけ皆様と力を併せて夢に向かって邁進していきたいと思っております。

最後に、皆様方のご健康とご活躍をお祈りして、私の新年の挨拶に代えさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

平成26年1月6日

大阪大学総長 **平野俊夫**

～ 賀詞交歓会の様子～



挨拶をする恵比須繁之理事（コンベンションセンター）



新年を祝って鏡割りをする総長と理事

総長・理事からみなさまに

新年のご挨拶



七福神
詣り始めは
恵比須さま



平成二十六年 元旦
恵比須繁之

この年は
教育改革の年
よろこび
をお願いします



平成二十六年 元旦
東島清

昼のお星は眼にみえぬ
見えぬけれどもあるんだよ
見えぬものもあるんだよ

金子みすゞ 星とタンポポより

オンラインワシの視点を育み、
ナンバーワンの研究成果を目指す
皆様の努力を応援致します

平成二十六年 元旦
相本 三郎

目標はこうだ。自分が最上の奉仕ができる
ところへ、自分の人柄や特性や天分が最上
の地盤、最大の活動の場を見出すところへ、
いつも自分をおくことなんだ。その他には
目標はない。

ヘレン・ヘッセ 「知と愛」
【角川文庫・秋山六郎長編訳】より

新年おめでとうございませう
学生や教職員の方々が
それぞれの目標を達成されるよう祈念いたします

平成二十六年 元旦
尾山 眞之助

驥一日而千里
駑馬十駕
則亦及之矣

荀子の言葉

「一步一步こつこつ
歩み続けましょう」

平成二十六年 元旦
岡村 康行

奇跡のごとく
新しい年を作りましょう

平成二十六年 元旦
馬場章夫

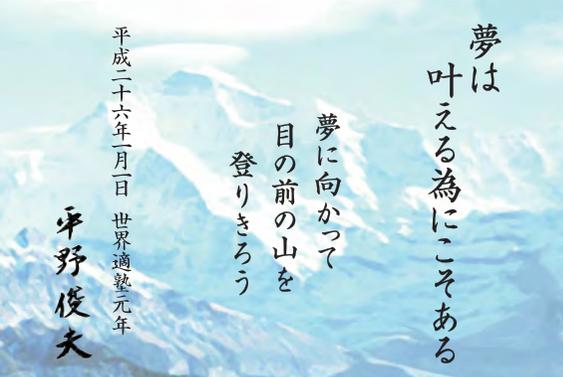
今年も
皆様とともに
頑張ります！

平成二十六年元旦
大竹文雄



夢は
叶える為にこそある
夢に向かつて
目の前の山を
登りきろう

平成二十六年一月一日 世界適塾元年
平野俊夫






市民と大学をつなぐ 阪大の社会学連携

グローバル考

大阪大学副学長 江口太郎

大阪大学のモットーは、山村雄一元総長のころに、本学の創立50周年(1981年)を記念して将来計画懇談会から提言された「地域に生き世界に伸びる」が定着している。英語で表記すると“Live Locally, Grow Globally.”になる。このlocalとglobalが対になった表現を最近よく耳にする。グローバル化(glocalization)という混成語も見かけるようになった。

これに関連したもっとも有名なフレーズが、“Think globally, act locally.”あるいは“Think global, act local.”である。誰が最初に言い始めたのかは諸説があってよくわからない。20世紀初頭に都市計画分野の学会や著作で使い始められ、その後21世紀に近づくにつれ、環境科学、教育、数学、ビジネス分野などで頻繁に使われた。最近の日本ではビジネス関係の書籍に散見される。私は、このフレーズの意味するところは「地域に生き世界に伸びる」と同じ精神で、グローバルな視点をもって地域交流に取り組むことであると思っている。

さて、つい最近、あるビジネス関係者から興味深いことを教えてもらった。近頃の業界では、“Think locally, act globally.”が流行っているというのである。まさに“Live Locally, Grow Globally.”と同じ語順であり、大学の社会貢献や地域交流に携わっていると、なるほどと思う。「逆もまた真なり」の趣である。いずれにしてもlocalとglobalとが絡み合うことが必須になる。

先日、日本経済新聞社から今年度の「全国大学の地域貢献度ランキング」の結果が発表された(詳細は『日経グローバル』No. 232(2013年11月18日発行))。ランキングの数字に一喜一憂する必要はないが、大阪大学は今年度は全国526大学中18位にランキングされていた(2011年79位、2012年31位)。

民間企業や団体が社会的責任=CSR(Corporate Social Responsibility)に熱心なご時勢でもあり、素直に嬉しい結果だと思っている。全学の地域貢献、公開講座やアウトリーチ活動などは、平日の夜間か週末(土日)に行われることが多い。このような行事は、グローバルな視点をもったとしても、どうしても草の根運動的にならざるを得ない。私はできる限り顔を出すようにしているが、現場の教職員・学生諸君の献身的な努力により大阪大学の知名度やブランド力が確実に地域の人たちに認められてきているように実感している。イベント情報に関しては大阪大学ホームページ上で常に更新しているので、皆様も機会があれば、ぜひともそのような催しに参加していただければ幸いです。

1 阪大の社学連携

『地域に生き世界に伸びる』

という本学のモットーはどのように誕生したのか。

将来計画懇談会（昭和55年7月発足）

大阪大学の将来計画について検討を進めるため、山村雄一第11代総長（任期：昭和54年8月～60年8月）を座長に発足。その中に設置された教育・研究体制専門委員会で、全学の講師以上の教員に、将来計画（教育・研究関係）に関するアンケート調査を実施し、取りまとめた中間答申（昭和56年11月）に、以下のとおり書かれている。これが、後々、大阪大学のモットーになったのである。

「回答者が大阪大学の将来に何を期待しているかを推察すると、一つには、国際的に活躍すること、そしてもう一つには、地域との関係を大切にすることであるように見受けられる。これを標語的に表現すると、『地域に生き世界に伸びる』ということになるのか」



阪大坂にある石碑

その後、石橋阪大坂の石碑や本学の広報誌の表紙など様々なところで、『地域に生き世界に伸びる』が使われ続けている。法人化後、定めることとなった本学の中期目標には、『『地域に生き世界に伸びる』という大阪大学の理念を実現する』と明記されている。ちなみに、国立大学法人の中期目標は文部科学大臣が定めることとなっている。



ロゴとモットーが組み合わさったパターン
(デザインガイドライン参照)

『大阪大学五十年史・通史』（昭和60年5月発行）



本書の序文で、山村元総長は次のように書いています。

「本学の歴史を一言に表現すれば『地域に生き世界に伸びる』ということになるであろう。関西の中核都市として、町民の独立独歩の精神に支えられて成長してきた大阪という地域と深いかかわりあいを持ち、その強力な支持を背景として本学は他の国立大学には見られない独自の発展を遂げてきた。本来学術と文化は国際的に評価されなければならない。本学はこれまでもそうであったように、将来にむかって国際化という言葉が不必要なものになるほど世界中に広げて深い国際交流を行なうとともに、国際的に最も高く評価される大学に成長することが望まれる。」

「地域に生き世界に伸びる」の題字は宮原秀夫元総長の揮毫によるもの。



『おもいでに学ぶ』

（昭和60年10月 山村元総長退官記念講演会で配付）



山村元総長は、以下のように述べています。

「私は大阪大学、それも医学部に学んでたいへん幸せであったと思いますが、その特色を一口でいいますと、つぎのようなことであります。それは大阪大学の将来計画懇談会が阪大の特色を表わす言葉として作り出したものですが、『地域に生き世界に伸びる』という言葉です。しかも『地域に生き、世界に伸びる』というふうに『地域に生き』と『世界に伸びる』の間にコンマは入ってはいません。この二つが一緒になっていることが大事なことであります」

「全国大学の地域貢献度ランキング」阪大は全国18位

日本経済新聞社が全国737大学を対象に調査した『地域貢献度ランキング』で、大阪大学は2013年の総合ランキングで全国18位（国立では12位）と、2012年の31位に比べて大きく順位を伸ばしました。

本学は、特に地域貢献の推進体制などをみる「組織・制度」の項目で高い評価を受けました。次ページで紹介する組織を中心に、全学的な社学連携活動を推進しています。

本調査は、2006年以來毎年実施されているもので、「組織・制度」の他、災害復旧・復興支援などの「ボランティア・防災」、学生の地元企業への就職やインターンシップ（就業体験）実績などの「学生」、産学連携を中心とする「企業・行政」、住民向け講座や施設の開放度をみる「住民」の5分野に関する設問で構成されています。

2012年

31位



2013年

18位

1 阪大の社会学連携

社会学連携を推進する4つのエンジン

【総合学術博物館】

本学の歴史、最新の教育・研究成果を紹介

総合学術博物館は地域社会との連携拠点となる組織です。本学の歴史から最新の教育・研究成果までを学内外に紹介するため、展示、収集・調査、社会貢献活動を行っています。



展示活動については、大学の歴史、創立以来収集・保管してきた学術標本等を常時公開し、春と秋には、最新の教育・研究成果を企画展・特別展を開催して紹介しております。

収集・調査活動については、各部署に散在している学術資料の一元的管理を進めるとともに、特定の目的で収集された学術標本を別の視点や新たな方法で調査し、新たな学術価値を見出し、活用する方法等を研究しております。

社会貢献活動については、当館のイベントとして定着した、サイエンス・カフェ@待兼山をはじめ、夏の小学生科学体験教室、湯川記念室主催の湯川記念講演会、最先端の科学を高校生に—Saturday Afternoon Physics—を開催しております。

特徴的な事業(イベント)

常設展では大阪大学の歴史や本学で活躍した研究者とその業績、待兼山の自然などを紹介し、企画展・特別展では研究成果の発表の場として、「ほんもの」の迫力を伝えるとともに、学生教職員から一般市民をまきこんで「大阪大学スタイル」の確立と、本学の魅力を市民に伝える「アウトリーチ活動」を展開し、本学のブランド力強化の一翼を担っております。

構成員へのメッセージ

博物館は、研究成果を展覧会で一般の方にもわかる平易な形で可視化するとともに、多種多様な情報を集める場として機能し、独自のスタンスによる調査や研究が立ち上がる“実験の場”でもあります。引き続き地域交流型ミュージアムとして活発な活動を展開していきたいと考えておりますので、地域の皆様や教職員・学生など多くの方々が、大阪大学の生み出した「人・モノ・情報」との交流をゆったりとした気分で味わい楽しんでいただけるよう願っております。

総合学術博物館ホームページ
http://www.museum.osaka-u.ac.jp/

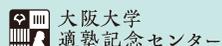


【適塾記念センター】

唯一残る蘭学塾の遺構「適塾」を研究

適塾記念センターは、適塾建物の維持管理、適塾・緒方洪庵に関する資料の管理と収集、適塾に関する研究・大阪とオランダの学術や文化に関する研究に寄与することを目的として、平成23年4月に発足しました。

唯一残る蘭学塾の遺構で、国史跡・重要文化財である適塾の建物を末永く後世に受け継ぐため、昨秋より耐震改修工事を実施しています。また、資料収集や調査研究の成果を広く社会に伝えるため「特別展示」、「適塾講座」、「適塾記念講演会」、「適塾見学会」を開催しています。現在センターに置かれている「適塾記念会」は昭和27年に設立され、会誌『適塾』の刊行など、大阪大学の研究者が市民とともに適塾・緒方洪庵を顕彰する場となってきました。適塾記念センターでは、これらの催しや適塾の一般公開を通じて、適塾の精神の継承に努めています。



特徴的な事業(イベント)

適塾：豊富な資料(レプリカ)と解説により、緒方洪庵の業績や塾での生活をより具体的に、かつ身近に感じていただけるよう工夫しています。

適塾記念講演会：本年は、「大坂洋学事始—その萌芽と成熟」をテーマに開催。約200名の市民の方々にご参加いただきました。

ホームページ：適塾記念センターの紹介や適塾についての解説、最新のイベント情報などを発信しています。



適塾記念講演会

構成員へのメッセージ

適塾は現在、耐震改修工事のため休館しておりますが、再開館は本年4月中旬～5月上旬を予定しています。大阪大学の学生及び適塾記念会会員は入館料が無料ですので、再開館の際には、ぜひ足をお運びください。大阪大学の源流のひとつと位置付けられている適塾で、緒方洪庵の学問への真摯な姿勢、自由で闊達な塾の気風を感じていただけることでしょう。

適塾記念センター
http://www.tekijuku.osaka-u.ac.jp/



【21世紀懐徳堂】

市民と大学をつなぐコーディネータ

2008年4月に発足した、市民と大阪大学をつなぐ社会学連携や社会貢献活動の窓口です。大阪大学の高度な研究と教育の成果、文化的資源を広く社会に還元し、また、学外からの要望を受け、大学のさまざまな活動に反映させるコーディネータの役割を果たします。

大阪大学の社会学連携の情報を集約し広報するとともに、大阪大学の精神的源流のひとつである「懐徳堂」で尊重された自由闊達で広範な分野にわたる学び合いの精神を汲み、公開講座、サイエンスカフェ、シンポジウムなどを企画・運営し、市民のみならずと学生・教職員が出会い、能動的に学び合う場づくりを展開し、大阪大学のブランド力向上に寄与しています。



特徴的な事業(イベント)

- (1) 学内の多様な社会学連携活動に関する情報を収集し発信しています。
- (2) アウトリーチ活動支援の窓口として、学内の研究者に向けて取り組み体制を周知しています。
- (3) 社会学連携活動のモデル事業を展開し、研究発表の場を提供、また、開発した手法などを関係部署に伝え質の向上を図っています。



毎月開催のアカデミックキッキング

構成員へのメッセージ

一般の方に向けて教育・研究成果の発表をお考えの際は、ご一報ください。「やってみよう」「規模やスタイル」「これまでうまくいかなかったこと」などを伺い、広報のお手伝いや、既存の21世紀懐徳堂主催の公開講座への出講など、臨機応変にご提案します。

21世紀懐徳堂ホームページ
http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/
大阪大学アウトリーチWEB
http://outreach.21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/



【コミュニケーションデザイン・センター】

大学の専門知識を市民と如何に共有するか

複雑に専門化した現代社会の中で、しなやかで強靱な実行力をもった人物が信に足るコミュニケーションを実現するための、コミュニケーションデザインに取り組むべく、2005年4月に誕生しました。コミュニケーションデザインを、「専門的知識をもつ者ともたない者の間、利害や立場の異なる人々の間をつなぐコミュニケーション回路を構想・設計・実践」と定義しています。社会学連携事業では、異なる専門領域のスタッフが、幅広い市民サポートを実現し、大学と社会の新たな関係をつくるための様々な活動を行っています。多岐にわたる試みを通じて、社会との対話の場づくりや対話によるイノベーションを目指しています。

特徴的な事業(イベント)

企業とNPOとの協働によるコミュニティスペース「アートエリアB1」の運営・事業の企画制作

アートエリアB1は、対話の場「ラボカフェ」や大阪大学 アートエリアB1運営事業の一例 創立80周年記念関連事業「知のジムナスティックス〜学問の臨床、人間力の鍛錬とは何か〜」などを実施。恒常的に社会に開かれた学外拠点の一つとして、様々な機関やマスコミからの評価と注目を得ています。



アートエリアB1運営事業の一例

異なる領域の第一線で活躍する専門家同士の対談企画「知デリ」

アート&テクノロジー知術研究プロジェクト「知デリ」は、独自のテーマを紡ぎ、理系研究者と文系研究者、アーティストと科学者など異なる専門家による対話のイノベーションを実現しています。



「素材と交感する、二人」名和晃平&能木雅也

構成員へのメッセージ

アートエリアB1の対話プログラム「ラボカフェ」は、研究者のアウトリーチや学生のPBLの学外拠点の一つとして活用されています。(学内公募の窓口は21世紀懐徳堂まで) その他でも、学外の様々な機関や組織とのネットワークがありますので、学外における対話プログラム等の実施のご相談は可能です。

CSCD http://www.cscd.osaka-u.ac.jp
アートエリアB1 http://artarea-b1.jp

1 阪大の社会学連携

～頑張ってます! 社会学連携活動～

【広報・社会学連携オフィス社会学連携課】

社会学連携を担う大学事務のポータル組織

社会貢献の窓口の一つとして、本学の教育、研究、社会への情報発信、交流などの社会学連携に関する事務を担当しています。

21世紀懐徳堂、総合学術博物館、中之島センター及び大阪大学同窓会連合会などの社会学連携活動に関係する組織・施設の事務を担当するほか、適塾記念センターの事務も担っています。

大学全体の社会学連携イベントに関するものとして、大阪大学シンポジウム、大阪大学公開講座、ホームカミングデイや大阪大学の集いや自治体、企業、同窓会組織など各種団体との連携事業の事務も担当し、これらに関する学内関係部署との連絡・調整などにあたっています。

- ①大阪大学シンポジウム
- ②大阪大学公開講座
- ③ホームカミングデイ・大阪大学の集い

継続的に実施している事業では、毎回ご参加いただいている方も。

イベントに参加された皆さんが満足してお帰りになる様子を見ると、達成感に満たされます。

「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする本学が世界に向かってそのブランドを高めるためにも、その基盤となる地域との連携・交流を積極的に実施しています。



昨年8月に開催した大阪大学シンポジウム

適塾を源流とし、懐徳堂の精神を引き継ぐ大阪大学は、社会に広く開かれた現在の学問所でもあります。

社会学連携活動は、教職員・学生の方々のご協力で成り立っていますので、引き続きみなさまのご理解とご協力をお願いします。

特徴的な事業(イベント)

構成員へのメッセージ

【URA】

大学の研究成果を効率的に社会に発信

2012年6月、文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)事業の採択を受け、大型教育研究プロジェクト支援室内にURA(大学におけるリサーチ・アドミニストレーター)チームが立ち上がり、今に至ります。

URAチームは、主に外部資金獲得や、獲得した外部資金によるプロジェクト運営の支援に携わっていますが、その一環として、「研究推進・支援」と「社会学連携」の接点を意識しながら、市民の方向けのサイエンスカフェ等のアウトリーチ活動支援にも取り組んでいます。

私たちが支援しているサイエンスカフェでは、研究者とともに、事務職員も積極的に関わられる仕組みを作っています。これまでに6つの附置研究所・センターの30人以上の事務職員が、OJT(On the Job Training)としてサイエンスカフェの企画・運営に関わり、自身の部局の研究者の研究の意義を再認識すると同時に、市民の方々の反応を肌で感じてきました。事務職員は、研究支援の役割を担うだけでなく、社会学連携の重要なプレイヤーでもあるのです。



開催運営に精を出すスタッフ

市民の方向けに研究成果を伝えたい・対話してみたい研究者の方。まずはご一報ください。アウトリーチ活動が義務化されているプロジェクトへの対応実績も豊富です。また、部局の事務職員の方のOJT研修を兼ねてサイエンスカフェ等を実施したい場合もお気軽にご相談ください。その経験は、日常業務にもきっと役に立つはずですよ。

大型教育研究プロジェクト支援室 URA チーム
<http://www.lserp.osaka-u.ac.jp/ura/>

特徴的な事業(イベント)

構成員へのメッセージ

多彩な社会学連携活動 ～大阪府教育委員会との連携協定～

大阪大学は大阪府教育委員会と、大学及び高等学校における教育の課題に関し、連携して必要な対応を行うことにより教育及び研究の充実、発展を目的として、2011年7月に連携協定を締結しました。また、大阪府立高等学校進学指導特色校(Global Leaders High School: GLHS)とは、本学の教育および研究活動の理解を深め、かつ、GLHSにおける教育の充実発展を目的として、覚書を締結しました。これまで、大阪大学を会場に本学教員を講師として進学指導特色校の研究発表会や、平野俊夫総長を含む役員による学校訪問を行っています。



進学指導特色校(GLHS)10校合同発表会
(2月9日、大阪大学会館)



大阪府立四條畷高校(11月6日、平野総長)

最近の活動

GLHSとの合同企画「ハンダイ Talk LIVE」は、GLHSを卒業した先輩学生や教職員たちが、「ハンダイの良さ、楽しさ」、「大学での学びは何か」といったメッセージを、直接的な対話を通して伝えることで、GLHS10校の優秀な生徒達から「大阪大学で学びたい!」という熱意を引き出すことを期待して実施しました。

現役の学部学生が登場するパネルディスカッションでは、大学受験に向け、苦手科目の克服法や部活と勉強の両立方法など、彼らの実体験を踏まえたアドバイスが送られ、参加者は自分達と歳の近い先輩からの貴重な言葉に真剣に聞き入っていました。

大阪大学では、次世代のリーダーとなるグローバル人材の育成等のため、今後もこのような取組みを積極的に行っていきます。



ハンダイ×GLHS特別企画「ハンダイ Talk LIVE 一先輩の話を聞きに行こう!」(平成25年10月20日、27日 大阪大学会館)



1 阪大の社会学連携

多彩な社会学連携活動 ～ 各部署の事例 ～

大阪大学では、各部署においても数多くの多彩な社会学連携活動が行われ、地域市民や社会をつなぐ架け橋となっています。ここでは、その中でもユニークなものをご紹介します。

理学研究科

小中学生夏休み 理科自由研究アドバイザー

豊中市教育センターとの連携事業。理科離れの抑制、理科教育活性化などに貢献するため、本学学生が小中学生の夏休み理科自由研究にアドバイスをを行っている。



医学部附属病院

一日看護師体験の実施

大阪府の高校生「一日看護師体験」事業の一環で、10名を受入れている。将来の看護師像を具体的に描ける機会を提供している。



国際教育交流センター

大阪府初任者・吹田市初任2年目研修

大阪府および吹田市教育センターと提携して、中学・高校の若手教師を対象にした研修。多文化化する学校での教育のあり方について認識を深める機会を提供している。

学生部学務課

高校生対象の授業公開

高校生が本学学生と一緒に同じ授業に参加。大学の「学び」を体験し、問題解決のための知的好奇心を刺激し創造性を育む。大阪府下14校と個別に協定を締結のうえ実施。

工学研究科

高知県佐川町との連携協定

高知県佐川町と2009年に連携協定を締結。「理科、科学を好きになってもらう」ことを目的に、小中学校での「出前授業」を開催。



国際教育交流センター

国際理解教育プログラムへの留学生派遣

大阪府ほか近隣12市町村の教育委員会と連携し、留学生と中学・高校のマッチング、派遣を実施。今年度だけで300名以上を派遣。



サイバーメディアセンター

スーパーコンピューティング コンテスト

高校生らがスパコン上で行うプログラミングコンテスト。東京工業大学と阪大が共催で、難題プログラムをスパコン上で作成し、性能を競う。



総合学術博物館 湯川記念室

Saturday Afternoon Physics

高校生を対象に、講義・実験で最先端の物理・科学に対する興味を引き出す。学内7部署による共催で、大阪府教育委員会ほか8機関の後援を受けて、秋の土曜午後連続開催。理科に対する苦手意識の克服や興味の創出、阪大のイメージアップにも取り組んでいる。



1 阪大の社会学連携

多彩な社会学連携活動 ~ 各部署の事例 ~

男女共同参画推進オフィス

女子中高生のための 関西科学塾

関西の5大学(神戸大学、京都大学、奈良女子大学、大阪府立大学)が連携。大学の実験や女性研究者・学生と女子中高生の交流で、理系への進路選択を支援する。



ナノサイエンスデザイン教育研究センター

NBCIのロードマップを活用した ナノテクノロジーデザイン論・ 討論の実施

(社)ナノテクノロジービジネス推進協議会(NBCI)と連携。大学院生と社会人が一堂に会するシナジー効果を活用し、討論重視で行う「ナノテクノロジー技術ロードマップの理解と実践」を目指している。



サイバーメディアセンター

Vislab OSAKA

関西の研究機関と共同で運営する大規模計算結果などの可視化によるアウトリーチと産学連携・共同研究を目指すスペースをグランフロント大阪に開設。詳しくはVislab OSAKA ウェブページまで:

<https://sites.google.com/site/vislabosaka/home/vislaboffice>



医学系研究科産科学婦人科学

若年者に急増する 子宮頸癌に対する取り組み

府下自治体と共同で、子宮頸癌予防ワクチン(HPVワクチン)接種率の調査、子宮がん検診受診率の調査などを実施。学園祭などで若い女性に子宮がん検診受診を呼びかける活動も行っている。



総合学術博物館

サイエンスカフェ@待兼山

豊中市立中央公民館と連携。専門家と市民の交流の場を設け、最新の研究に触れる機会を提供している。



適塾記念センター

阪神奈大学・ 研究機関生涯学習ネット 公開講座フェスタ

大阪、兵庫、和歌山の25大学・研究機関が大阪府と開催。幅広い世代への継続的な「学び」の支援を行っている。



医学系研究科附属ツインリサーチセンター

ふたごフェスティバル

予防医学に貢献する双生児研究(ツインリサーチ)について紹介・報告し、ふたごの方々が世代を超えて交流する場を提供。今年はふたご、関係者合わせて約70組200人が参集。大阪府、大阪府医師会、大阪府看護協会が後援。



総合学術博物館

豊中市小・中学生理科展

豊中市教育センターと連携して、市内の小中学生理科展の自由研究成果を表彰。「大阪大学総合学術博物館長賞」「待兼山賞」を贈呈。



キャンパスデザイン室・施設部

豊中キャンパス竹林を接点とした活動

豊中市柴原町自治会を中心とした竹の会や、その他周辺自治会、学生、教職員が豊中キャンパスにて竹の間伐、清掃などを実施。平成25年度には、本活動が大阪府の「第3回みどりのまちづくり賞 ランドスケープマネジメント部門 奨励賞」を受賞。



役員室 だより

国際共同研究促進プログラム ー平成26年度開始プログラムを募集中

本学の未来戦略の一環として、「国際共同研究促進プログラム」を創設しました。今年度は15プログラムを採択し、実施しているところです。

このプログラムは、最先端の研究を展開している外国人研究者と本学の研究者との共同研究を支援するものですが、単なる国際共同研究の支援ではなく、招へい研究者が離日している時にも共同研究を続行できるように、支援研究者を雇用する経費や招へい研究者の研究室の若手研究者が来学するための経費も措置されます。

本プログラムは、国際共同研究室(国際ジョイントラボ)設立の第一陣と位置付けられるとともに、招へい研究者によるセミナーや講義への参加を通して、今後の本学のグローバル化を推進する上で中心的な役割を担っていくこととなります。

現在、平成26年度に開始するプログラムの募集を行っています(応募期限:2月3日)。

支援内容は、招へい研究者の旅費・謝金、共同研究グループの外国旅費、研究員の雇用経費など、1年度当たり最大1,500万円です。

詳細につきましては、本学公式ホームページ「ニュース&トピックス」に掲載しております。

皆様の積極的な応募をお待ちしています。

理事・副学長 相本 三郎

「未来戦略」に向けた施策 ～人事・給与システムの柔軟化について～

「大阪大学未来戦略(2012-2015)」に掲げる「柔軟な人事制度の構築」の観点から、教員の給与制度の選択肢を増やし、教員の採用について各部署の自由度を拡げ、

- ① 教員組織の充実を図る
- ② 教員へのインセンティブを高め、優れた人材を確保する
- ③ 教育研究活動の活性化に有効活用する

を趣旨とした新たな3つの人事制度を、本年1月から導入しました。

I. 年俸制教員制度(期間の定めのない雇用、65歳定年制)

- 国際的に優れた研究者等で大学が特に必要と認める者(教授クラス)を対象。
- 給与制度及び退職手当制度を除き、原則として月給制適用教員と同様の条件。
- 職務給を原則とした年俸制を新設。
- 「基本給部分」と業績等を反映することを前提とした「賞与部分」の2区分構成。

基本給部分(対象者ごとに設定)

- ・ 対象者の業績及び大学の財務状況等を総合的に勘案し、額を決定する。

賞与部分(教育・研究等の業績等を反映し増減する「業績変動賞与」を創設。)

- ・ 教育・研究等の業績評価を考慮し、賞与額の区分を決定する。
- ・ 大学としての基本的な評価の指標を明示し、その指標に基づき、評価を行う。

- ・ 国際的に高い評価を受けている研究者を、欧米の有名大学並みの処遇で雇用することができる。
- ・ 業績等に応じた年収額となる。業績変動賞与は、最大で「基本給部分」の2倍の額となることもある。
- ・ 年収額は、最高の評価で約3000万円までを想定。

II. クロス・アポイントメント制度

- 本学の教育研究の発展に寄与する場合、相手方機関との協定締結により実施。
- 本学及び相手方機関の双方に身分を有し、双方の業務を行う。
- 双方の勤務割合を協定で定め、本学の勤務割合に応じた給与を支給する。
- 月給制適用教員・年俸制適用教員を対象とする(期間の定めの有無を問わず)。
- 制度の対象とする相手方機関は、以下を想定。
〔・大学・研究機関等(海外を含む)を予定。
・大学の方針、制度利用の目的等を総合的に勘案して、個別に承認する。〕
- 人事管理上は、「在籍出向」として取り扱う。

- ・ 本学教員あるいは相手方機関の研究者等が現職を離れることなく、双方の身分を持ちつつ、柔軟に教育研究活動に従事することができる。
- ・ 相手方機関から優秀な人材を受け入れることにより、本学の教育研究活動のアクティビティを高め、教育研究基盤の強化・発展、産学連携の推進等に結びつけることができる。

III. 短期間勤務制度

- 1年度(12月)のうち、1月以上3月以内の勤務しない期間を設定できる。
- 本人からの申請を受け、大学が承認した場合にのみ、適用する。
- 勤務しない期間は、「休職」として取り扱い、給与は支給しない。
- 対象範囲は、年俸制適用教員とする(期間の定めの有無を問わず)。



- ・ 長期間の自己研鑽など、自己の教育研究関係業務を推進するための活動等を実施可。
- ・ 制度利用中は、大学以外の企業等での常勤職を兼ねることができる(要許可手続)。

- ・ 欧米の大学等では、1年間のうち、夏季休業期間を除いた勤務する期間が概ね9月間となっている。勤務をしない期間には給与は支給されないが、勤務先以外での仕事で資金を得ることが認められていることを参考に設計した制度。
- ・ 海外の大学と同様の勤務形態を可能とすることで、グローバルスタンダードとなる優秀な人材を確保し、教員の多様な活動を促進する。

理事 尾山 眞之助

役員室だより

役員が各部署を訪問、意見交換

産業科学研究所への訪問を皮切りに、平野俊夫総長をはじめとする執行部の役員が各部署を訪問しています。

「大阪大学未来戦略」にも掲げる22世紀に輝く大阪大学の将来展望を築いていくためには、大阪大学が持つ知見・人材・基盤等を結集することが必要であり、そのためには、各部署においてそれぞれの専門性を追求すると同時に、その優れた専門性を紡ぎ、育て、有機的に連携させていくことが重要となります。

その観点から、今後の大学運営や将来展望の構築等に反映していくことを目的として、大学運営に責任を持つ執行部が各部署を訪問し、現場に触れ、現状を把握するとともに、各部署が組織として現在抱える課題や今後の展望について意見交換する場を設けることとさせていただきます。

今後、本年夏頃までに全ての部署を訪問する予定ですので、各部署の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

11月12日(火) 産業科学研究所

12月3日(火) 医学系研究科

12月17日(火) 文学研究科

理事・副学長 相本 三郎



産業科学研究所訪問



医学系研究科訪問

平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

第2期中期目標期間3年目の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果が国立大学法人評価委員会から公表されました。

本学では、「総長のリーダーシップの下、基盤的研究の推進、全学的な教育の充実、教育の国際化の推進等、法人の基本的な目標に沿って計画的に取り組んでいることが認められる」との高い評価を受けました。

特に、大阪大学独自の施設老朽化対策(学内の全ての建物について保有面積1㎡あたり年間500円、計約5億円の予算留保)や、教員雇用制度の柔軟化(大阪大学特別教授制度や特例教員制度等)については、特筆すべき事項として特記されました。

また、各項目の評価結果については、以下のとおりです。

- ・「業務運営」については「特筆」(本学を含め4法人のみ)
- ・「財務内容」「自己点検・情報公開等」「その他業務」の各事項については「順調に進んでいる」

※評価結果全文については、本学公式ウェブページから「評価結果」で検索してご覧ください。

理事・副学長 恵比須 繁之

平成26年度概算要求新規事業について

平成26年度概算要求については、教育研究活動のさらなる充実・発展のため特別経費等を、昨年7月中旬に文部科学省に提出し、8月末に文部科学省から財務省へ概算要求が行われ、その結果、12月下旬に予算案の伝達がありました。

特別経費では、新たに、国立大学改革の加速・推進を目指した、各大学の個性や特色に応じた意欲的な取組を支援する「国立大学機能強化分」が新設され、本学の取組が採択されました。また、従来の「プロジェクト分」としては、新規事業4件が以下のとおり採択されました。

【国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実】 アジア人材育成のための領域横断国際研究教育拠点形成事業 (工学研究科)

アジア人材育成のために、「統合型グローバルキャンパス」を構築し、海外大学とのダブルディグリーや単位互換制度の整備、各種国際化教育プログラムの設計、新たな英語コース等のコンテンツ開発を行い、領域横断国際研究教育拠点を形成する。

【高度な専門職業人の育成や専門教育機能の充実】 社会に開かれた大学院の科学技術人材育成モデル事業 —社会連携とグローバル化に適うナノデザイン教育研究によるものづくり理工学人材の育成— (ナノサイエンスデザイン教育研究センター)

日本の科学技術の将来は、ナノ理工学・材料活用が鍵を握るものづくりの技術力と国際的社会的適応力に依存する。本プロジェクトでは、これまでの技術革新力を伸ばす学際横断型人材育成とリンクする形で、今後の新産業の国際競争力の要となる社会性・国際性を重視した人材育成のモデル事業を推進する。

【高度な専門職業人の育成や専門教育機能の充実】 「死因究明学」の創造と担い手養成プラン(医学系研究科)

旧来の学問体系の垣根を越え、医・歯・薬の3つの研究科が連携し、新たに「死因究明学」という学問領域を立ち上げる。科学的な検討による死因診断ガイドラインを構築するとともに、死因究明医、法歯科医、薬毒物分析専門家等の多角的アカデミアの養成を行う。

【大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実】 —ハイパー量子分光による—物質の階層構造解明事業 (核物理研究センター)

核物理研究センターの既存の施設で培ってきた研究手法をベースにして、国内の加速器施設と連携することにより、ハイパー量子状態を生成・分光する世界に類のない施設を整備し、物質階層の起源と構造を解明する。

理事・副学長 恵比須 繁之

大阪大学はクリーンキャンパスを実現します

大阪大学では、受動喫煙防止のさらなる徹底、学生及び教職員の健康保持・増進、未成年者の喫煙防止を推進するため、平成29年4月に向けて敷地内全面禁煙に移行することになりました。

今後、敷地内全面禁煙への円滑な移行に向け、以下の取り組みを行ってまいりますので、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。



屋外喫煙場所の段階的削減
(卒煙支援ブースへの移行)



禁煙教育・啓発キャンペーンの実施
(いちょう祭、まちかね祭等)



禁煙相談の実施・禁煙補助薬の提供
(保健センター)



平成25年度まちかね祭での禁煙啓発キャンペーン
(禁煙マスコットスワン(吸わん)君、平野俊夫総長、ワニ博士)



理事 尾山 眞之助

危機管理

Crisis Control



事故・事件



トラブル



火災



漏洩

危機（事故・事件・トラブル等）は残念ながら必ず起きてしまいます。危機が起きたときはわたしたちの想像以上にたくさんの対応が必要になります。

緊急連絡体制の再確認を！

大阪大学では緊急時、危機事態発生時の連絡体制を明確にし、危機を適正に管理できるように努めています。

（管理体制は安全衛生管理部HPも参照（学内限定））

危機管理には初動、特に第一報がとても大切です。危機的事態が発生あるいは発生するおそれのある場合、事態を認識してから**30分以内に**、速やかに安全衛生管理部へ連絡ください。

本部 安全衛生管理部へ

勤務時間内 06-6879-4023

休日・夜間等 090-6826-2804



STOP！研究費不正！

—公的研究費の不正使用～処分等までの流れについて—

公的研究費
不正使用

●預け金、品名替等：いつ発覚するかドキドキしながら研究・事務処理等続ける。



通報・発覚
（通報窓口：監査室）
06-6879-4071

●通報者：学部生、大学院生、研究室の教員・秘書、事務部職員、取引業者（社長、営業・経理担当者）等
●文部科学省及び会計検査院経由の通報
●税務署・地検特捜部による取引業者への税務調査・捜査により預け金その他が発覚

調査
（調査委員会）

●調査対象経費・年度
・研究者等が関わったすべての経費の関係書類を調査
・調査対象年度は、原則5年～8年遡及
●調査対象者
・研究室の教員・秘書、事務部職員、取引業者等の関係者すべてから事情聴取

公表
（調査結果）

●調査結果の公表（中間公表をする場合もある）
・不正使用の場合は、氏名を公表
●調査結果の報告
・総長名で文部科学省及び資金交付元に報告

不正使用と認められたときは

- 公的研究費の返還（研究費として使用しても返還必要）
 - ・不正使用した公的研究費の全額+加算金（加算金は、公的研究費を受領した日から返還の日まで、年率10.95%）を資金交付元に返還（不正使用の場合は全額個人負担）
- 応募資格の制限
 - ・不正使用の内容に応じてペナルティ（研究費として使用：1年～5年、私的流用：10年）
- 本学での処分
 - ・懲戒解雇等の厳しい処分（氏名の公表を含む）、退職手当の返還、事務系職員が関わった場合は、懲戒処分の対象
- 私的流用等、悪質な場合は刑事告訴
- 研究機関に対するペナルティ
 - ・間接経費の減額査定、交付する経費の一部減額等
 - ・評価による予算減額

【不正使用防止計画推進室からのお願い】

虚偽の書類作成をしなければ、不正使用になることはありませんので、絶対に虚偽の書類作成だけは、されないようお願いいたします。適切な経費の執行を！！



不正使用防止計画推進室 Tel 06-6879-4767

第54回まちかね祭

11月2日(土)～4日(月)、毎年恒例のまちかね祭が開催され、大勢の来場者で賑わいました。

また、11月3日(日)には、豊中キャンパスで、大阪大学未来基金「創立100周年ゆめ募金キャンペーン in まちかね祭」が行われました。特設ステージ「奏」では、「阪大クイズバトル」が開催され、ワニ博士と滝ノ道ゆずる君(箕面市マスコットキャラクター)が応援する中、大阪大学に関するクイズが出題され、来場者が平野俊夫総長に挑みました。

クイズバトル終了後、平野総長が「大阪大学には、創立100周年(2031年)に世界トップ10の大学になるという夢があります。皆さんの夢もそうであるように、夢の実現を信じて小さなことでも一つ一つ積み重ねることが大切です。また「我々の大学は我々の力で良くする」という気持ちが大事です。学生や教職員の皆様はその気持ちを込めて、ぜひとも創立100周年ゆめ募金に参加してください。また、地域の皆様にも大阪大学を支援していただきたい」と来場者に募金への協力を呼びかけました。

引き続き、平野総長が特設ブースに立って募金を呼びかけました。100名を超える多くの方から募金があり、寄付者には平野総長直筆サイン入りの「大阪大学ニューズレター 2011-2013」が手渡されました。

「創立100周年ゆめ募金」キャンペーンは、各キャンパスの生協書籍・購買コーナーで実施されています。



「阪大クイズバトル」の様子



ブースでは多くの方に募金いただきました。



大学祭中央実行委員会(中実)委員長
坂田祐里香さん(法学部3年)

「阪大に入ったら大学祭の運営をやろうと思っていた」。こう話す坂田さんは、文化祭の盛んな京都女子大学付属高校の出身。高校時代から文化祭が好きで入学と同時に中実に。3年生の今年が委員長に推され、ためらわず引き受けました。委員長となって運営を任せ、責任や苦勞も経験。

サークルがいろんな企画を持ってくる中、大学側と折衝してダメと言われたときは一番苦しい。学生にどう伝えるか悩んだと話します。中実で5月のいちよう祭と11月のまちかね祭を3年間やり切った今の気持ちは「阪大の学生は、一度は大学祭にきてほしい、後輩たちはもっと大学祭を盛り上げてほしい」と。最後に「今年のまちかね祭を最後に引退するので、少し寂しくなるなー」とも。

『阪神地区大学国際化推進ネットワークシンポジウム』 ～やるかやらないか！グローバル化にかける4大学の覚悟～を開催

11月29日(金)、大阪大学、神戸大学、関西大学、関西学院大学で構成される「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」(通称「阪神ネット」)シンポジウムが、うめきた・グランフロント大阪・コングレコンベンションセンターで開催されました。

大学関係者をはじめ135名が参加したシンポジウムでは、「グローバル化時代における大学の国際化と人材育成」をテーマとした基調講演にはじまり、後半では、阪神ネット4大学の副学長と各界パネリスト(企業、大学コンソーシアム、経済産業省)によるパネルディスカッションが行われました。パネリストからは、「グローバル人材育成」、「大学の経営管理体制」といった観点から丁丁発止で議論が交わされるとともに、満員のフロアからも多くの質問が寄せられ、白熱した展開となりました。



阪神ネット4大学副学長及び各界代表によるパネルディスカッション

東京で「大阪大学の今」を分かち合う 大阪大学の集い

12月5日(木)、東京・学士会館で「大阪大学の集い」が開催され、関東方面の卒業生や教職員OBのほか、大阪からも現役の教職員・学生約240名の方の参加がありました。

講演会の部では、平野俊夫総長から大阪大学の近況報告、熊谷信昭 大阪大学同窓会連合会会長(元総長)による挨拶の後、NHK World News部の榎原美樹副部長(1987年文学部卒)から、「グローバル化の波と日本～OSAKAの進む道考察」と題した講演がありました。

続いて開催した交流会では、法学部同窓会「青雲会」の杉政静夫東京支部長による乾杯により会がはじまり、各部局同窓会の東京・関東支部などの近況報告が行われました。また、会場内では、学部・研究科の垣根を越え先輩・後輩が名刺交換をする姿や、在学中の思い出や近況について語り合う様子があちこちで見受けられ、盛会裏に終了しました。



榎原美樹さんの講演



平野総長を囲んで記念撮影

第7回男女共同参画シンポジウムを開催

12月3日(火)、「女性という最大の潜在力を引き出すために」をテーマに男女共同参画シンポジウムを開催しました。技術者や人事担当、執行役員など様々なキャリアを持つ国立女性教育会館の内海房子理事長からの講演の後、本学教職員と内海理事長、文部科学省の藤江陽子課長による討議を行い、女性の社会参加の観点だけでは語れない男女共同参画の意義、そのためのワークライフバランスの重要性を考える場となりました。



講演を行う内海理事長



内海理事長と平野総長

また、これに先立ち、内海理事長が平野俊夫総長を訪問し、本学の現状や研究と育児との両立方策等について意見交換を行いました。

大阪大学吹田グラウンド 愛称「すいらん」に決定

12月15日(日)、吹田キャンパスに昨年7月に完成した初の人工芝生グラウンドの愛称披露記念式典が開催され、体育会をはじめ、医学部、歯学部の各サッカー部やそのOB、OGが多数参加しました。

愛称は、「すいらん」で、「吹田」と「走る(run)」を掛け合わせたもの。

愛称の募集は、昨年の夏に本学の学生をはじめとした全構成員を対象に行われ、親しみやすく学生の間でも末永く残っていく呼びやすい名称を学生や理事、教職員で構成される選考委員会で選考し、人間科学部1年の中井遼太郎さんが提案した作品に決定しました。

また、吹田グラウンドにナイター設備が株式会社ガンバ大阪のご厚意により、この春整備されることになり、平野俊夫総長から感謝状が贈呈されました。



愛称提案者の中井さんと平野俊夫総長、恵比須繁之理事、東島清理事

書道は生活のスパイス。 新たな研究意欲につながる。

北郷 悠 (きたごう ゆう)

蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター 分子創製学研究室 助教

今回は、蛋白質研究所で結晶構造解析の研究をする一方で、書道で師範位をお持ちの北郷悠助教にお話を伺いました。多忙な研究活動と書道への情熱について、熱く語っていただきました。



書道との出会いは?

小学5年生のときから習字教室に通い始めました。毛筆を中心に、高校までは一般的な「書道(日本習字)」を習っていましたが、大学進学の際に、師事していた先生から勧められたことをきっかけに、魏晉南北朝時代に活躍した王羲之などの有名な書家の作品をはじめとした、中国の古典(全日本書芸文化院)へ方向転換し、年4ヶ月ずつ3課題、隷書・草書・行書・楷書を学びました。これからは細字臨書と篆刻も習得したいです。

書道の魅力とは何ですか?

書けば書くほど何をどう書けばよいか分からなくなる…、その奥深さが魅力の一つだと思います。段位が低い時には、先生のお手本通りに清書できればよかったのですが、師範位に近づくにつれ、自分で拓本(石碑に刻まれた文字を紙に写し



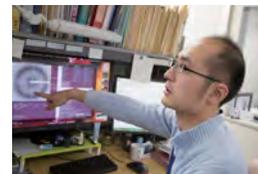
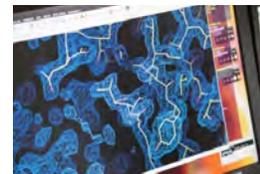
取ったもの)の全文を参照し、伝統、様式に則ったうえで課題をどう表現するかを考えなければなりません。年に一回の昇段試験のときなど、短期間で多くの作品を仕上げなければならないときは余裕がありませんでしたが、今後は作品の背景にある歴史や文化、思想なども勉強していくことでより作品の理解を深め、のちのちはそれらを昇華した自分の作品を書けるようになったらと思います。

作品の背景を知ると、実技にどう生かされるのですか?

例えば、現代では中国の古典を書く時には柔らかい羊毛の筆を使うことが主流になっていますが、私はイタチ毛の固い筆を使っています。その理由は、当時の中国にはほとんど羊がおらず、イタチなど固い性質の毛を使っていたと考えられるからです。このように、出典のバックグラウンドの知識を深めると、当時の状況に合わせた作品を仕上げるためにはどうすべきか、イメージが作りやすくなります。

どのような研究をされているのですか?

研究室では、蛋白質が生物の体内でどう働くのかということが大きなテーマですが、私は特に「結晶構造解析」という手法を使って一つ一つの蛋白質分子の立体構造を決定し、そこからその蛋白質分子の性質を見極める研究をしています。現在は、アルツハイマー病関連蛋白質の構造解析から、病態を紐解くヒントになると期待される研究を手掛けています。いつか自分の研究を医療の分野で使ってもらえると嬉しいですね。



書道の経験から研究に通じていることはありますか?

私にとっては、研究生活を送る上で、研究のことを全く考えない時間が必要不可欠です。研究が忙しくて趣味の時間がほとんど取れなかったときは、かえって思うように研究が進まない時期もありました。それ以来、研究以外のことに集中する時間を頑張って作るようにしています。特に書道は一つの作品を仕上げるために高度な集中力を必要としますので、スパイスのように日常生活にもう一味、緊張感と彩りを添えてくれるように感じます。

学内のみなさんに一言お願いします。

字を書く機会が少ない現代ですが、道具ならスーパーでもネットでも簡単に手に入ります。少しでも興味をお持ちでしたら気軽に書道に挑戦していただければと思います。私の所属する研究室は、附属研究施設という性格上、普段目にされることが少ないと思います。このような機会に我々の組織を知っていただいて、さらにご興味を持っていただけたら幸いです。共同研究のお誘いでも、意欲的な学生さんの配属希望でも大歓迎ですので、ぜひ研究室・研究所のウェブページをご覧ください。

研究室 URL

<http://www.protein.osaka-u.ac.jp/rcsfp/synthesis/>
蛋白質研究所 URL

<http://www.protein.osaka-u.ac.jp/>



作品:「爵鹿相榎 籩柎禁壺 飾宅廟更作二興」
(出典:『礼器碑』、作:北郷 悠)

(鍾、磬、瑟、鼓、雷、洗、觶、觚、)爵(さかずき)、鹿(四角い米蔵)、相(川水をせき止めるもの、もしくはさんざし)、榎(たかつき)、籩(竹で編み、口に藤のふちのついたたかつき)、柎(皮を縄として用いる木)、禁(杯を置く台)、壺(つぼ、もしくは夕顔かナツメといった植物)、宅廟の改修を監修し、さらに二興(興の一種)を作った。

北郷助教による意識

(鍾、磬、瑟、鼓、雷、洗、觶、觚、)爵(さかずき)、鹿(四角い米蔵)、相(川水をせき止めるもの、もしくはさんざし)、榎(たかつき)、籩(竹で編み、口に藤のふちのついたたかつき)、柎(皮を縄として用いる木)、禁(杯を置く台)、壺(つぼ、もしくは夕顔かナツメといった植物)、宅廟の改修を監修し、さらに二興(興の一種)を作った。

『礼器碑』

後漢の永寿2年(西暦156年)、孔子廟の改修に関わった者の氏名・功績を記した碑である。後漢の隷書碑中、最も優れたものとも評され、古来より書の手本とされてきた。作風が部位によって大きく異なることから、書き手が複数との説もある。特にこの部所は筆勢の強弱に富み、理知的な美しさを備えていると言える。

「心ある その手が人を つないでく」

阪大病院ボランティア ふれ愛

大阪大学の医学部と歯学部の附属病院で、院内ボランティアさんが活動されています。ボランティアの皆さんは、ホスピタリティ向上の重要な役割を担っています。今回は、医学部附属病院のボランティアグループ「ふれ愛」の様子取材しました。

普段どのような活動をされていますか？

外来では、患者さんへの診療手続きの説明や、診療科窓口への案内、誘導、車椅子介助と入退院センターのお手伝いなどを行っています。病棟では、配茶、配膳、買物代行、洗濯物のお手伝いなどを行っています。

小児科病棟では、小児の患者さんの遊び相手や、週一度の移動図書をやっています。その他、糖尿病教室のお手伝い、子供たちとの折り紙遊び、ソーイング等の室内作業、患者図書コーナー、小児科外来の窓のディスプレイの模様替えや、クリスマスコンサート(昨年は12月20日開催)でのプログラム配布のお手伝いをしています。

活動の中で大切にしていることはありますか？

患者さんには、さりげないお手伝いや、温かい笑顔で出しゃばらず控え目に見守ることを心がけています。

ボランティア控室では、情報共有のためのホワイトボードを設置したり、活動に行く時は鏡で笑顔をチェックします。活動が終わると部屋では「ホット」できるような工夫をしています。仲間がいるから長く続けることができ、実際に立ち上げ当初からボランティアを続けているメンバーは10名以上おり、80歳を越えた方もいます。

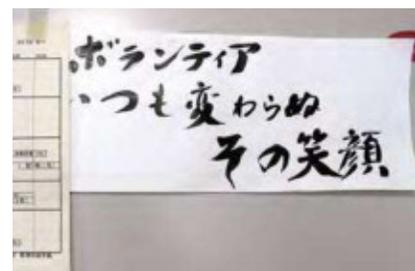
印象に残っているエピソードを教えてください。

普段のちょっとした患者さんとのふれあいが、私たちの励みになっています。例えば、移動図書で小児科病棟に定期的に絵本を届けていますが、子供たちが待ちきれず病室から飛び出してきたり、ボランティアの選んだ本を「おもしろかった」と言ってくれたりするとこれからも頑張ろうと思ってやりがいが増えます。また、入院患者さんが私の顔を見て「今日は水曜ね。」などと、自分が担当の曜日を覚えていてくださることも励みになります。

学内のみなさんに一言お願いします。

今回の記事をきっかけに、多くの学生・教職員の方にボランティア活動に興味を持っていただくと嬉しいです。また、院内で見かけたらぜひ声をかけてください。

ボランティアはやりたいと思う気持ちがあればすぐに始められます。現在阪大在学中の学生さんも何人か参加されています。ボランティアに興味があり、続けられる方のご参加をお待ちしております。



▲ボランティアルームに掲げられている標語が全員の合言葉になっています。



お話を伺ったボランティアのみなさん ▶

こんな活動をしています



▲デイルームでの折り紙遊び

▼自動支払機の操作説明



▼小児外来壁面のディスプレイ貼り替え



▲小児科病棟で子どもたちの遊び相手



▲寝具やユニフォームの繕い



▲車椅子介助手伝い

～ 前田正美副看護部長(ボランティア担当)からのコメント～

ボランティアさんは、外来から入院生活に至るまで、患者さんにとって強力なサポーターです。疾患を抱え不安な患者さんにとって、ボランティアさんの静かな見守りや差し伸べられた手の温かさを感じることは、とても「心安らぐ」ことではないでしょうか？今後も多様化する医療現場で、ますます活躍していただきたいと思います。

阪大病院ボランティア ふれ愛 あなたも参加してみませんか？

病院ボランティアは、通院や入院中の患者さんのために、病院職員が手の届かない部分について、皆様の暖かいボランティア活動をお願いするものです。人と人のつながり、ふれあいの心があれば、どなたでも参加できます。

- ・活動時間：月～金(休日・年末年始は除く) 午前8時30分～午後5時
 - ・参加の目安：18歳以上の方
月2回以上、1日2時間以上活動可能な方
1年以上継続して活動可能な方
 - ・面接：3ヶ月に1回程度
- 【問い合わせ先】
医学部附属病院医事課患者サービス推進室
電話：06(6879)5111 内線5254

表彰・受賞等

柳田敏雄生命機能研究科特任教授が文化功労者に選ばれました



今年の文化功労者に、本学の柳田敏雄生命機能研究科特任教授（大阪大学・情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター長）が選ばれました。

生物物理学の分野において、「1分子計測技術」を開発し、筋肉の収縮メカニズムを解明するなど、人工機械とは異なる側面を持つと期待される生物システムの動作原理の解明に尽力し、数々の画期的成果を挙げ、斯学の発展に多大な貢献をしたことが評価されました。

平成25年秋の叙勲

池田和義 名誉教授(工学部)	瑞宝中綬章
村井眞二 名誉教授(工学部)	
鈴木良次 名誉教授(基礎工学部)	
乙政潤 名誉教授(大阪外国語大学)	
山崎修一郎 名誉教授(理学部)	瑞宝小綬章
林貞夫 元医学部附属病院医療技術部長	瑞宝双光章

第10回(平成25年度)日本学術振興会賞

人間科学研究科	村上靖彦 准教授
理学研究科	小林研介 教授
薬学研究科	堤康史 教授
産業科学研究科	永井健治 教授

平成25年度「科研費」審査委員の表彰(日本学術振興会)

文学研究科	山上浩嗣 准教授
理学研究科	橋本幸士 教授
医学系研究科	澤井元 准教授
基礎工学研究科	直田健 教授

平成25年度医学教育等関係業務功労者表彰

医学部附属病院	竹岡啓子 主任臨床(衛生)検査技師
歯学部附属病院	神谷潤 歯科技工士

受賞等

法学部	国際公共政策学科 赤井伸郎ゼミ	WEST 論文研究発表会 最優秀賞
法学研究科	砂原庸介 准教授	サントリー学芸賞 政治・経済部門
経済学研究科	阿部顕三 教授	第8回(2013年度)日本国際経済学会小島清賞・研究奨励賞
	澤井実 教授	第56回(2013年度)日経・経済図書文化賞
国際公共政策研究科	松林哲也 准教授	第56回(2013年度)日経・経済図書文化賞
医学系研究科	森正樹 教授	第11回佐川特別賞
	近藤誠 助教	第29回井上研究奨励賞
	荒尾晴恵 教授	第11回佐川看護特別賞
医学部附属病院	福森優司 医事課主任 (医療ソーシャルワーカー)	日本難病医療ネットワーク学会賞 第1回学術集会優秀ポスター賞
	中央クオリティマネジメント部	第7回「新しい医療のかたち」賞 医療者・医療機関を中心とした取り組み部門
歯学部附属病院	森崎市治郎 病院長/教授	2013年度グッドデザイン賞
	村上旬平 助教	
	財間達也さん(研究生)	
薬学研究科	好光健彦 准教授	第11回有機合成化学協会関西支部賞
	吾郷由希夫 助教	日本神経精神薬理学会 平成25年度学術奨励賞
工学研究科	松村暢彦 准教授	平成24年度(61回大会)第17回工学教育賞「業績部門」
	倉敷哲生 准教授	
	森裕章 准教授	
	若本和仁 准教授	
	池田順治 特任教授	
	上西啓介 教授	
	大村悦二 教授	
	加賀有津子 教授	
	山本孝夫 教授	
	座古勝 名誉教授/特任教授	
	伊藤厚示 特任教授	
	高野和夫 特任教授	
	竹田太四郎 特任教授	
	竹田太四郎 特任教授	

工学研究科	大竹久夫 教授	日本生物工学会第32回生物工学賞
	杉山峰崇 准教授	
	金子嘉信 寄附講座教授	日本生物工学会第21回生物工学論文賞
	原島俊 教授	
	ティオ シャオ ティングさん(D1)	日本生物工学会第2回生物工学学生優秀賞(飛翔賞)
	川崎和男 名誉教授/特任教授	DFA Bronze Award(アジアデザイン 銅賞)
基礎工学研究科	春木康平さん(M1)	日本セラミックス協会 第26回秋季シンポジウム 最優秀ポスター賞
	Yusuf Nur Wijayantoさん(D3)	応用物理学会 講演奨励賞
	鶴田一魁さん(D2)	2013 IEEE International Topical Meeting on Microwave Photonics Best Student Paper Award First Place
	西井啓起さん(M1)	2013 Asia-Pacific Microwave Conference Best Student Paper Award
	鄭祥敬さん(M2)	第8回野村総合研究所(NRI)学生小論文コンテスト<留学生の部>大賞
微生物病研究所	松浦善治 教授	第56回野口英世記念医学賞
産業科学研究科	安藤陽一 教授	第30回井上学術賞
	藤原宏平 助教	Materials Research Society Best Poster Award
	何毓輝 特任研究員(常勤)	中国留日同学会 優秀論文賞 大阪市長賞
	長島一樹 特任助教	第2回ネイチャー・インダストリー・アワード 特別賞
附属図書館	グローバル・コモンズ	第26回日経ニューオフィス賞 近畿ニューオフィス特別賞「ラーニング・コモンズ賞」
臨床医学融合研究教育センター	保坂誠 招へい研究員	第5回ものづくり日本大賞 特別賞(山科精工株式会社との共同開発による受賞)
	中島清一 特任教授	
コミュニケーションデザイン・センター	八木絵香 准教授	科学技術社会論学会 2013年度科学技術社会論・柿内賢信記念賞 実践賞
グローバルコラボレーションセンター	住村欣範 准教授	人民健康功労記章(ベトナム社会主義共和国保健省)
核物理研究センター	白鳥昂太郎 助教	第19回原子核談話会新人賞
キャンパスデザイン室		第3回みどりのまちづくり賞 ランドスケープマネジメント部門 奨励賞 (地域団体との共同受賞)
施設部		

— 第6回大阪大学総長による表彰 —

文学研究科	湯淺邦弘 教授	基礎工学研究科	乾口雅弘 教授
	秋田茂 教授		荒木勉 教授
	金城未来 助教		富田田誠之 准教授
人間科学研究科	白井伸之介 教授		岩井大輔 准教授
理学研究科	田島節子 教授		吉元俊輔 助教
	松野健治 教授		横田一広 特任研究員(常勤)
	戸所泰人 技術職員		坂口良幸 技術専門職員
医学系研究科	森正樹 教授	生命機能研究科	近藤滋 教授
	片上直人 寄附講座助教	産業科学研究科	谷口正輝 教授
	増田佳純 助教		安藤陽一 教授
薬学研究科	松田敏夫 教授		古崎晃司 准教授
	岡田欣晃 准教授		瀬川耕司 准教授
	廣部祥子 助教		能木雅也 准教授
工学研究科	高橋幸生 准教授		福井健一 助教
	柳楽知也 助教		武井史恵 助教
	川辺了一 技術専門職員	情報推進機構	柏崎礼生 助教

— 業務改善アイデア賞 —

医学部附属病院 医事課	宮下五子 事務職員	提案課題：会議室の情報共有
微生物病研究所	古上由香里 事務職員	
核物理研究センター	辻博博 事務職員	
医学系研究科保健学事務室	中野辰也 事務職員	
総務企画部人事課	南岡宏樹 事務職員	

人事

— 新理事補佐 —

平成25年11月1日 山根聡(財務担当、言語文化研究科教授)

— 新教授 —

平成25年10月16日	篠原一光	【所属】人間科学研究科 人間科学専攻 人間行動学講座	【前職】本学准教授
		【最終学歴】H4.3 大阪大学大学院人間科学研究科行動学専攻前期課程修了	
平成25年11月1日	平川秀幸	【所属】コミュニケーションデザイン・センター 科学技術部門	【前職】本学准教授
		【最終学歴】H6.6 国際基督教大学大学院比較文化研究科博士前期課程修了	
平成25年11月16日	福田光宏	【所属】核物理研究センター 加速器研究部門	【前職】本学准教授
		【最終学歴】S63.6 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻博士後期課程修了	
平成25年12月1日	坂田泰史	【所属】医学系研究科 医学専攻 内科学講座	【前職】本学講師
		【最終学歴】H14.3 大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻博士課程修了	
	伊藤和博	【所属】接合科学研究所 接合機構研究部門	【前職】本学准教授
		【最終学歴】H8.3 京都大学大学院工学研究科博士後期課程金属加工学専攻修了	
平成26年1月1日	中野元裕	【所属】理学研究科 附属構造熱科学研究センター	【前職】本学准教授
		【最終学歴】H2.9 大阪大学大学院理学研究科博士課程(後期課程)無機及び物理化学専攻修了	

訃報

歯学部	河村洋二郎 名誉教授	平成25年11月26日 逝去
人間科学研究科	木前利秋 教授	平成25年12月4日 逝去
微生物病研究所	高橋理明 名誉教授	平成25年12月16日 逝去
理学部	関集三 名誉教授	平成25年12月24日 逝去

— 平成25年度永年勤続者表彰 —

未来戦略支援事務局	石田勇 佐々木司	医学部附属病院	中川里恵 家平裕三子 千菊るみ子 中土居智子 三好育子 竹田津利江 城田智子 大野由美子 大峰利成 砂田淳子 丸山美保 井ノ上信一 松澤博明 蒲生隆 松永伸一
国際交流オフィス学生交流推進課	石本太一	医学部附属病院総務課	橋本あかね
総務企画部総務課	山口紀子	医学部附属病院管理課	橋中希
研究推進部研究推進課	西川陽子	歯学研究科総務課	中野哲也 産屋敷寿雄
研究推進部産学連携課	前田学 池田年秀	歯学部附属病院	熊谷由加里 西田映子
財務部吹田調達センター室	尾島正義	工学研究科研究協力室	森島さおり
財務部豊中調達センター室	山田孝行	基礎工学研究科	佐藤慎治
学生部入試課	金田幸三	言語文化研究科・外国語学部豊中事務室	赤松圭子
全学教育推進機構等	木村誠	言語文化研究科・外国語学部箕面事務室	坂本護
附属図書館図書館企画課	岡田綾子	情報科学研究科	梶浦聡
経済学研究科・国際公共政策研究科	高井洋一 永田幸子	生命機能研究科	岡本安生
理学部	平井智美	産業科学研究所総務課	山口澄章
医学系研究科	外野善弘		
医学部	小田茂樹		
医学系研究科総務課	前田ゆかり		
医学部附属病院	高垣佳史 木下直美 吉村栄里 松宮朱美 前田明子 川原風砂子 石川恵美 鍋方美枝子 北村芳子 中村亜紀子 富岡美奈		

総長からエコ・レンジャーへ感謝状を贈呈

10月21日(月)、平野俊夫総長から、エコ・レンジャーのスタッフとリーダーへ、感謝状が贈呈されました。日本最高気温を更新した今夏の酷暑の中、本学の環境美化に取り組んだことに対して、平野総長から、感謝とねぎらいの言葉があり、記念品(阪大グッズ:フェイスタオル)が贈られました。

平野総長から感謝状と記念品のフェイスタオルを贈呈(総長室)



大阪大学未来トーク

第8回 1月20日(月) 17:00～18:30 大阪大学会館 講堂

佐川真人

インターメタリクス株式会社 最高技術顧問、ネオジム磁石*発明者

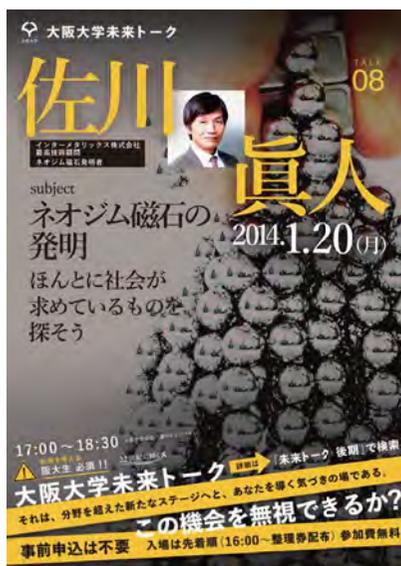
「ネオジム磁石の発明 ほんとに社会が求めているものを探そう」

*ネオジム磁石：
ハードディスクドライブやCDプレーヤー、携帯電話などの小型の製品から、
電車・電気自動車・エレベーターなどあらゆるものに使用されており、実用化
されている永久磁石では最強とされる。

平成26年度も開催します！
前期開催分(予定)

- 第9回 4月21日(月) 大阪大学会館
平野俊夫(大阪大学総長)
- 第10回 5月26日(月) コンベンションセンター
加藤友朗(コロンビア大学教授(「神の手」の外科医))
- 第11回 6月23日(月) 大阪大学会館
青木保(国立新美術館館長、前・文化庁長官、大阪大学名誉教授)
- 第12回 7月22日(火) 大阪大学会館
遠山敦子(元・文部科学大臣、元・文化庁長官、公益財団法人トヨタ財団理事長)

参加方法：事前申込不要、参加費無料、入場は先着順(16:00から開場・整理券配布)
問合せ先：未来戦略支援事務局総務係 Tel: 06-6879-4897 / Fax: 06-6879-4899
E-mail: mirai-talk2013@iai.osaka-u.ac.jp



大阪大学未来戦略機構シンポジウム

Opt Osaka 2014 in Tokyo -大阪大学の光科学100-

開催日時：3月6日(木) 12:30より受付開始
開催場所：東京大手町サンケイプラザ4階ホール
問合せ先：未来戦略機構量子科学研究部門事務局
TEL：06-6879-7987 E-mail：photon1@photon.osaka-u.ac.jp
URL：http://www.photon.osaka-u.ac.jp/



平成25年度大阪大学職員研修 「学術論文の研究評価指標に関する最近の動向」

開催日時：1月22日(水) 13:30～17:00
開催場所：附属図書館生命科学図書館
AVホール
講演者等：甲斐真佐美(トムソン・ロイター)、
坂東 慶太(MyOpenArchive)
参加方法：附属図書館ウェブサイトから申込、参加費無料
問合せ先：附属図書館図書館企画課企画係 岡田
TEL: 06-6850-5073
E-mail: kikaku01@library.osaka-u.ac.jp



サイエンスカフェ@待兼山

開催日時：1月25日(土)、3月29日(土)
開催場所：総合学術博物館 待兼山修学館
参加方法：各カフェ開催日の2ヶ月前～1ヶ月前
までにWebフォームまたは往復ハガキ
にて事前申込
参加費用：200円(飲み物代)
詳細は本学公式ウェブサイトから
「サイエンスカフェ@待兼山」で検索
問合せ先：総合学術博物館 TEL：06-6850-6715



第17回産研国際シンポジウム



The 17th SANKEN International Symposium 2014
Joined with The 2nd International Symposium of Nano-Macro Materials, Devices, and System Research Alliance Project
“HUMAN SENSING considering from the behavior of substances ranging from molecules to organisms”
開催日時：1月21日(火)～22日(水)
開催場所：銀杏会館
問合せ先：SYMPO2014@sanken.osaka-u.ac.jp

第1回関西ナノテクノロジー国際シンポジウム



1st KANSAI Nanoscience and Nanotechnology International Symposium
9th Handai Nanoscience and Nanotechnology International Symposium
12th SANKEN Nanotechnology Symposium
- Cutting Edge of Nanoscience and Nanotechnology in Green Innovation and Life Innovation -
開催日時：2月3日(月)～4日(火)
開催場所：千里ライフサイエンスセンター
問合せ先：nanosympo2013@sanken.osaka-u.ac.jp

拠点開設記念シンポジウム

広域アジア発ものづくり技術グローバル人材育成 ～研究者ネットワークとカップリングインターンシップ～



開催日時：1月30日(木) 13:00～17:00
開催場所：ステーションコンファレンス東京503会議室(東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー5階)
講演者等：宣島信子(JICA人間開発部)、松崎八重子(JETROビジネス情報サービス部)、平山好邦(パナソニック(株)R&D本部)、
若山祐二((株)神戸製鋼所人事労政部)、東島清(理事・副学長)、近藤勝義(接合科学研究所副所長)、横江好一
(言語文化研究科特任教授)
参加方法：詳細は接合科学研究所ウェブサイトまで、参加費無料
問合せ先：広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター シンポジウム事務局
TEL：06-6879-8695 E-mail：katsumata@jwri.osaka-u.ac.jp

最先端研究開発支援プログラム(FIRST) 審良プロジェクト 公開シンポジウム「免疫研究が拓く未来医療」



開催日時：2月1日(土) 13:00～16:00
開催場所：日本科学未来館 みらいCANホール(東京都江東区青木2-3-6)
講演者等：審良静男(免疫学フロンティア研究センター拠点長)、服部有宏(中外製薬(株)研究本部)
参加方法：公開シンポジウムウェブサイトから事前参加登録(参加費無料、先着順)
問合せ先：審良プロジェクト公開シンポジウム事務局 E-mail：info@akira-pj.jp

第2回稲盛財団寄附講座公開セミナー「公共空間と倫理(vol.2) 食の公共空間—「ナチスのキッチン」と公共性—



開催日時：2月1日(土) 14:00～17:00
開催場所：中之島センター 講義室301
講演者等：藤原辰史(京都大学准教授)
参加方法：以下の問合せ先までお名前、ご所属、電話番号、メールアドレスを添えて申込(締切1/30)
問合せ先：OSIPP 稲盛財団寄附講座事務局 TEL：06-6850-5638 / FAX：06-6850-5656
E-mail：inamori_seminar0201@osipp.osaka-u.ac.jp

Handai-Asahi 中之島塾(1～3月期)



開催日時：2月1日(土)～3月29日(土)
開催場所：中之島センター
講演者等：①田中敏郎(医学系研究科教授)②吉森保(医学系研究科/生命機能研究科教授)③七五三木聡(医学系研究科准
教授)④森川和則(人間科学研究科教授)⑤小矢野哲夫(言語文化研究科教授)⑥金水敏(文学研究科教授)、松本修
(朝日放送プロデューサー)
参加方法：朝日カルチャーセンター中之島教室のウェブサイトまたは電話(06-6222-5224)により申込(随時受付)
参加費用：受講料1,575円(①と③は全2回のため3,150円)
問合せ先：21世紀懐徳堂 TEL：06-6850-6443

～ 2014 年は「マチカネワニ」Year！～



マチカネワニ発掘から50年

皆さんは龍が中国の空想の動物であることはよくご存知だと思います。その龍伝説の起源となったのが「マチカネワニ」である、という説を唱える人がいます。本当に証明されればすばらしいことですね。2014 年は、そのマチカネワニが豊中キャンパス理学部校舎建設現場から発見されてからちょうど50年になります。それを記念して、大阪大学では、豊中市と大阪府の協力により、化石標本を国の登録天然記念物へ申請することになっています。次号の阪大NOWでは、マチカネワニを取り上げて皆さんにお知らせする予定です。



発掘されたマチカネワニの頭骨
(豊中キャンパス)

ワニ博士も受験生を応援

受験シーズンを迎え、大阪大学はネスレ日本が製造する KitKat チョコレートで、同社の受験生応援キャンペーンに協力しています。店頭で販売されている 14 個入り紅白パック (右下) の中から、応援メッセージ入りの阪大「ワニ博士」のチョコ (下) が見つければラッキーです。ワニ博士が阪大受験生を応援しています。



文化庁／文化遺産地域活性化推進事業

総合学術博物館第17回企画展 「野中古墳と『倭の五王』の時代」

開催日時：2月1日(土)～3月22日(土) 10:30～17:00 (日曜・祝日休館)
開催場所：総合学術博物館 待兼山修学館
主な展示：野中古墳出土品、アリ山古墳出土品、駒ヶ谷宮山古墳出土品、駒ヶ谷北古墳出土品、ヌク谷北塚古墳出土品、真名井古墳出土品、墓山古墳出土品
問合せ先：総合学術博物館 待兼山修学館 TEL：06-6850-6284



講演会「河内政権への道」※上記企画展の関連イベント

開催日時：3月1日(土) 13:00～15:40
開催場所：基礎工学国際棟Σホール
講演者等：中久保辰夫(埋蔵文化財調査室助教)、豊島直博(奈良大学文学部准教授)、福永伸哉(文学研究科教授)
参加方法：申込不要、当日先着順230名、参加費無料
問合せ先：文学研究科考古学研究室 TEL：06-6850-5106

第9回大学対抗交渉コンペティションシンポジウム

“コンペティションの「問題」を解剖する”

開催日時：3月8日(土) 14:00～18:00
開催場所：東京大学本郷キャンパス 法学政治学系総合教育棟101教室
参加方法：詳細はウェブページに掲載、参加費無料
問合せ先：インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション事務局(国際公共政策研究科 交渉教育支援センター内)
TEL/FAX: 06-6850-5629 E-mail: nego-center@osipp.osaka-u.ac.jp



大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」

“食”や“料理”という身近な切り口から、学問的なものの見方・考え方を身につける教養講座です。専門的で難解な大学の先生の研究でも、どこかで普段のわたしたちの生活とつながっている…。そんな楽しい実感から、日常生活にちょっと変化をもたらすアカデミックな思考回路が生まれます。あなたも一緒に、ガス火で作る料理から新たな学びのとびらを開いてみませんか？



①vol.43
「燃える愛～北欧の料理にみる愛のかたち」
開催日時：2月25日(火) 18:30～21:00
講演者等：古谷大輔(言語文化研究科准教授)



②vol.44
「おいしいごはんの考古学」
開催日時：3月26日(水) 18:30～21:00
講演者等：中久保辰夫(埋蔵文化財調査室助教)

開催場所：大阪ガススクッキングスクール千里(豊中市新千里東町1-3-141 せんちゅうPAL1F)
参加方法：大阪ガススクッキングスクールウェブページ(①1/4～21②2/1～18)または電話(①1/7～21②2/5～18)により申込、定員24名、15歳以上どなたでも参加可(申込多数の場合は抽選)、受講料2,000円
問合せ先：申込は、大阪ガススクッキングスクール千里 TEL:06-6871-8561
講座内容についての問合せは21世紀懐徳堂 TEL:06-6850-6443

アジア糖尿病シンポジウム(2014 Osaka Symposium on Obesity and Diabetes)

開催日時：3月29日(土) 終日
開催場所：銀杏会館 3階 阪急電鉄・三和銀行ホール
講演者等：アジア諸国の著名な糖尿病研究者20名程度
参加費：5000円
問合せ先：医学系研究科 金藤秀明(内分泌・代謝内科学) E-mail: kaneto@endmet.med.osaka-u.ac.jp

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター棟竣工記念二大都市シンポジウム
福島の「今」、そして「未来」へつなぐ -東北への思いを関西への想いへ-

開催日時：3月8日(土) 12:30～17:00
開催場所：中之島センター
共催：大阪大学、関西大学
講演者等：鷲田清一前総長ほか福島市の現状報告やパネルディスカッションを予定
問合せ先：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター TEL:024-504-2833
大阪大学広報・社会学連携オフィス広報課 TEL:06-6879-7150

退職教授の記念講義

平成26年3月31日限りで定年等で退職される教授の記念講義(最終講義等)を、日程等が決まったものについてお知らせします(平成26年1月15日以降に開催予定のものについて掲載しています)。最新情報は、本学公式ウェブページ「イベント情報」で随時更新します。

部局(講座・部門等)	氏名	日時・場所	講義題目
文学研究科 文化動態論専攻 アート・メディア論講座	市川 明	2月21日(金) 16:00～18:00 文法経講義棟4階 文41番教室	プレヒトと能 -『谷行』から『イエスマン/ノーマン』へ-
言語文化研究科 言語文化専攻 言語認知科学講座	杉本 孝司	2月13日(木) 16:30～18:00 言語文化A棟2階 大会議室	The Wow Factors and The Aha Moments In My Life
言語文化研究科 言語社会専攻 ヨーロッパ・アメリカII講座	河野 彰	2月14日(金) 13:30～15:30 箕面キャンパス B棟1階 プレゼンテーションルーム	ポルトガル語の学習からポルトガル語の研究へ
言語文化研究科 言語社会専攻 アジア・アフリカ講座	高階 美行	2月18日(火) 16:00～ 場所：未定	未定
言語文化研究科 言語社会専攻 アジア・アフリカ講座	森 茂男	3月26日(水) 15:00～16:30 中之島センター 佐治敏三メモリアルホール	瑣細事

大阪大学に いいね!

大阪大学はFacebookに公式アカウントを開設しました。大阪大学の旬なニュースだけでなく、学内風景や、最新の研究成果情報などを発信します。「いいね!」をクリックして、タイムラインから今の大阪大学をご覧ください。

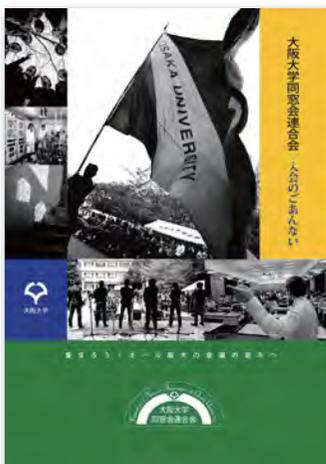


研究用ポータルサイト「ResOU」開設

大阪大学の最新で多彩な研究情報を集約した、ResOU「Research at Osaka University」をWEB上に公開しました。研究組織や研究者から旬な研究情報を検索できるなど、本学の研究成果を見やすく、わかりやすくお伝えするページです。大阪大学の研究ポテンシャルをぜひご覧ください。



大阪大学同窓会連合会 入会のご案内



- 【入会資格】
本学卒業(修了)生
本学教職員又は元教職員の方
- 【(入)会費】
15,000円(終身会費)
※いずれも正会員の場合
- 【会員各種割引特典(主な提携施設)】
(食事) 千里阪急ホテル
ホテル阪急エキスポパーク内の各種飲食店
工学研究科GSEコモソイースト棟内「ラ・シェーナ」
中之島センター
(宿泊) 東急ホテルズ
ホテル阪急エキスポパーク

詳細はウェブページをご覧ください。
<https://alumni.jim.osaka-u.ac.jp/alumni/>

大阪大学未来基金
“創立100周年ゆめ募金”
にご協力ください

大阪大学は「創立100周年、世界トップ10、未来基金100億円」を目標として、「創立100周年ゆめ募金」を開始しました。

【問い合わせ】
大阪大学基金事務室
TEL: 06-6879-8327/FAX: 06-6879-4337
Email: kikin@office.osaka-u.ac.jp
<http://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>

大阪大学
未来基金